

「麻機遊水地の自然」冊子キャラクター
●カワセミくん



麻

あさ

機

はた

ゆうすいち

しぜん

遊水地の自然



はじめに

あさはたもくてきゆうすいち
麻機多目的遊水地は、巴川流域総合治水対策事業の柱の1つとして、県施行の治水(河川)事業と静岡市施行の緑地(公園)事業を導入し、5つの工区に分けて整備を進めています。

各工区の名称は、静岡北部土地改良事業(昭和38年度～48年度)の工区名を受け継いだもので、昭和50年度に第4工区、昭和53年度に第3工区に着手し、現在は第1工区の遊水地整備を進めています。

遊水地では、工事により田畑が掘り起こされ、土中に埋もれていた種子(シードバンク)から湿原性の植物などが蘇り、昆虫、野鳥、魚、両生類などの生物も戻ってきています。

また、地域活動や環境教育などを通じて多くの人々が集い、平成16年1月には県民公募の巴川流域麻機遊水地自然再生協議会が発足しました。

この協議会では、「将来にわたり安定した、人と生きものの共生」を目指し、自然再生全体構想を平成19年3月に策定し、現在は自然再生実施計画の議論を進めています。

本冊子は平成16年3月に「特定非営利活動法人麻機湿原を保全する会」との協働により発行し、今回一部修正し再発行することになりました。既刊の「麻機遊水地に蘇る生きものたち」(平成15年10月)、「麻機遊水地の自然シリーズ②植物」(平成17年3月)ともども活用していただき、遊水地に対する関心を深めていただければ幸いです。

平成19年10月

静岡県静岡土木事務所
所長 松村 有二

巴川流域総合治水対策事業のご紹介

巴川の総合治水対策事業は、昭和49年(1974年)7月に発生した七夕豪雨の災害を契機に始められた流域全体で治水対策に取り組む事業です。この事業は、巴川本川の改修、大谷川放水路の建設、多目的遊水地(麻機遊水地、大内遊水地)の整備、流域内の学校、公園など公共施設への雨水貯留施設の整備が主な事業内容ですが、その他に水田への盛土規制や事業所は雨水を敷地内から川に流さないような構造の建物にするなど、行政だけでなく地域と協力して水害に強いまちづくりに取り組んでいます。総合治水対策事業が進むのに従い、流域での浸水被害も減少してきました。

麻機多目的遊水地は、もともと低地であった地理的条件を生かして、巴川が洪水の時には越流堤(堤防を低くした所)から洪水を引き込み、巴川の洪水を調節します。また、普段は公園として利用していただける多目的な施設です。平成16年10月に遊水地第3工区が完成し、5年に1度の降雨に対する安全性を確保しました。今後、さらに安全、安心して暮らしていけるまちを目指して、残る遊水地(1、2、5工区)の整備等を進めていきます。

目次

はじめに

・ 巴川流域総合治水対策事業のご紹介	1
・ 麻機遊水地は植物の宝庫	3
・ 植物ウォッチングおすすめポイント	5
・ 理解を深めるためにー基本用語	7
・ 観察力を高めるためにー植物の形と各部の名称	9
・ 春に見られる植物(27種)	11
絶滅危惧種(5種)	25
・ 夏に見られる植物(31種)	27
絶滅危惧種(9種)	43
・ 秋に見られる植物(31種)	47
絶滅危惧種(8種)	63
・ 麻機遊水地のヤナギ(8種)	65
・ 遊水地で見られる植物・科別出現表(516種)	67
・ 索引	80

凡例

- ・ この冊子は麻機遊水地に自生する過去20年間に記録された維管束植物600種以上の植物のうち、池沼や湿地、乾いた陸地に自生する植物516種を紹介しています。
- ・ 小学生(高学年)や初めて植物を観察する方にも活用していただけるように編集しました。特に119種は写真をつけて紹介しています。
- ・ 麻機遊水地における絶滅危惧種は解説ページを設け、すべて紹介しています。

麻機遊水地は植物の宝庫

麻機遊水地のあたりは、約6,000年前の縄文海進^{じょうもんかいしん}のころには、清水港からつづく古麻機湾と名づけられた入り江の最奥でした。その後の海面の低下と安倍川や周辺河川からの流出土砂によって、古麻機湾のほとんどは陸地となりましたが、麻機遊水地のあたりは海拔6メートルほどの沼として残されました。

低地の沼には、渡来する水鳥などにより、水生・湿生植物の種子が運ばれ、また水田の造成にともない、稲にまじり人に運ばれたりして多くの植物が生えるようになりました。

遊水地の造成が始まってから、これまでに見つけている植物は600種をこえています。この植物の種類^{しゆ}の多さは、遊水地の歴史の古さを物語っています。

しかし、この600種あまりの植物が遊水地でいつも見られるわけではありません。暖かい気候のところ^{ところ}にできた湿地では、生えてくる植物をそのままほうっておくと、次第に背の高いアシやガマの群落となり、背の低い植物はそれらの日陰となって消えてしまうからです。

でも、アシやガマに負けた背の低い多くの水生・湿生植物がまったくなくなってしまうわけではありません。それらの植物の種子は沼底の泥の中に、休眠して長い間生き残っているからです。休眠していた種子は、アシやガマが刈り取られて明るくなったり、沼底の泥が掘り起こされたりすると、長い眠りから覚めて発芽し成長を始めるのです。

そこで、遊水地で常に多くの種類の植物を生育させようとする^とと、あるところでは毎年土を掘り起こし、また、あるところでは掘り起こした土を数年ほうっておくなど、いろいろな方法で湿地に手を加えねばなりません。

近ごろ、あちこちで沼地や湿地は不要なもの、邪魔なもの^{もの}とみなされ、どんどん埋め立てられて、水生・湿生植物の生育場所が極端に少なくなっています。ま



第3工区の池沼

た田んぼでも、多くの除草剤が使われたため、雑草として生き残っていた湿生植物の多くが消えてしまいました。そのため、湿地に生える植物で、絶滅危惧種^{ぜつめつきぐしゆ}と指定されるものが非常に多くなっています。

麻機遊水地でも、最近まで水田として使われ除草剤がまかれていましたが、遊水地造成工事で深い眠りから覚めた植物の中に、国や県が絶滅のおそれがあると指定した植物が十数種も生き残っていたことがわかりました。遊水地では泥の層が厚く、深いところに休眠していた種子があったことが幸いしたのでしょうか。

水生・湿生植物の生育環境を破壊するものとしては、湿地の埋め立て以外にも水質の悪化も問題です。麻機遊水地周辺も宅地や商業施設が増加し、そこからの排水が遊水地内に流れ込んでいます。排水による水質汚染で直接死滅する植物もありますが、流入排水による富栄養化^{ふえいようか}により一部の植物が極端に繁殖し、他の植物を追いやる^{はんも}ことが心配されます。同じことは一部の帰化植物の侵入についてもいえることです。特に流入排水による富栄養化と、それによる一部の帰化植物の異常繁殖への対処が、今後の麻機遊水地の植生管理上もとても重要な課題でしょう。

麻機遊水地が、いつまでも環境汚染から守られ、攪乱^{かくらん}などの適当な人手による管理によって豊かな植物相が維持され、常に多くの植物が観察できる場であることを願っています。(湯浅保雄)



オオフサモとホテイアオイ



アシの群落



流入する油



セイタカアワダチソウ



植物ウォッチング — おすすめポイント

○印：代表的なおすすめポイント

ゴミは、絶対に
出さないでね。
たき火も
しないで。



●平成 15年 10月 18日 撮影

池沼で見られる草

春	夏から秋
アカウキクサ	アカウキクサ
オオフサモ	マツモ
ウキクサ	オオフサモ
アオウキクサ	ホテイアオイ
マツモ	ヒシ
ショウブ	ハス
	ホザキノフサモ
	マコモ
	アシ
	ガマ類
	オニバス
	チクゴスズメノヒエ
	オオカナダモ

遊水地ご利用の際の注意点

遊水地は大雨の時には急に水位が高くなります。赤色回転灯やサイレンが鳴ったら速やかに退避してください。

池沼には水生植物が繁茂していて、陸と池沼の境が明確でない場所があります。水辺に近づく時は十分な注意が必要です。

また、携帯用の消毒薬や虫さされ、バンソウコウなどの用意をおすすめします。

池沼のまわり(湿地)で見られる草

春	夏から秋
ヤナギ類の花	タデ類
アゼスゲ	クサネム
カサスゲ	ツルマメ
アゼナルコ	ゴキツル
ノミノフスマ	ホソバヒメミソハギ
タネツケバナ	キカシグサ
ケキツネノボタン	ミズマツバ
タガラシ	ウスゲチョウジタデ
オヘイイチゴ	ウスゲ
キツネアザミ	タコノアシ
コオニタビラコ	ホソバノヨツバムグラ
アリアケスミレ	ヒメサルダヒコ
	ミズワラビ
	スズメノトウガラシ
	オギノツメ
	オモダカ
	コナギ
	コゴメイ
	イ
	コウガイゼキショウ
	イボクサ
	コブナグサ
	チゴザサ
	オギ
	カヤツリグサ類

乾いた所(道ばたなど)で見られる草

春	夏から秋
スイバ	イトドリ
カラスノエンドウ	クサマオ
スズメノエンドウ	オオアレチノギク
カスマグサ	ヒメムカシヨモギ
イヌガラシ	コセンダングサ
ナズナ	アメリカセンダングサ
ホトケノザ	メマツヨイグサ
ヒメオドリコソウ	コマツヨイグサ
ノゲシ	ユウゲショウ
オニノゲシ	ヒロハホウキギク
オオイヌノフグリ	ホウキギク
タチイヌノフグリ	ヒメジョオン
	ハキダメギク
	アレチヌスビトハギ
	アレチハナガサ
	オオオナモミ
	ベニバナポロギク
	セイタカアワダチソウ
	アメリカイヌホウズキ
	ヒメジソ
	オオニシキソウ
	コニシキソウ
	カラスノゴマ
	キツネノマゴ

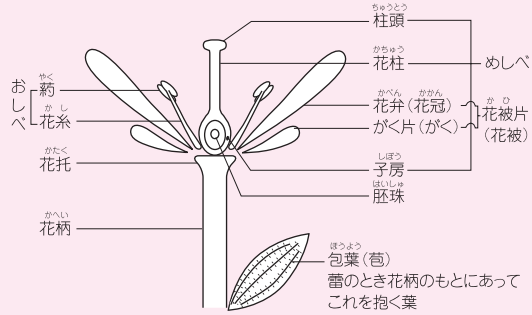
理解を深めるために——基本用語

- 羽状複葉（うじょうふくよう）：1つの葉が切れ込んで複数の小葉を持つ葉。葉脈の分岐回数によって1回羽状複葉、2回羽状複葉と呼ぶ。また、小葉の数によって偶数羽状複葉、奇数羽状複葉がある。
- 穎（えい）：イネ科やカヤツリグサ科の花を包む苞葉（鱗片葉）。イネ科の花では苞穎、護穎、内穎がある。
- 雄蕊（おしべ）：種子植物の雄性生殖器官。葯と花糸からなる。
- 外花穎（がいしかい）：イネ科の花を包む外側の穎。護穎ともいう。
- 外花被（がいかひ）：めしべ、おしべの外側にある直接生殖の役を持たない花葉。がくと花冠を指す。がくと花冠の区別がないとき併せて花被と呼ぶ。
- 花冠（かかん）：1つの花の花弁全体を指すことば。（英）カロラ
- 花茎（かけい）：ほとんど葉をつけず、先端に花をつける茎。
- 果実（かじつ）：子房が受粉後発育したもの。中に種子を含む。
- 花序（かじょ）：花軸上の花の並び方。花の集まりを指すこともある。
- 花柄（かへい）：花序の花をつける小枝のこと。
- 距（きょ）：スミレの花に見られる花弁の一部が袋状に突出した部分。
- 鋸歯（きょし）：葉の縁がノコギリ状に切れ込んださま。
- 互生（ごせい）：1節に葉が1枚ずつ付く葉の付き方。1節に葉が2枚ずつ付くのは対生（たいせい）。1節に葉が3枚以上付くのは輪生（りんせい）。
- 根茎（こんけい）：茎が地中を横に這って根のようにみえる部分。
- 根生葉（こんせいよう）：根元、地上部の基部から出る葉。短縮した茎から出ている。
- 朔果（さくか）：複数の心皮からなり、熟すと乾いて縦に裂け種子を放出する果実。マメのさや、ホウセンカの実がその例。
- 散形花序（さんけいかじょ）：セリ科にみられる茎の先端から傘の骨のように放射状に枝が出てその先端に花が付く花序。総状花序の節間がつまったものと考えられることができる。
- 子房（しぼう）：めしべの下部のふくらんだ部分で、なかに胚珠を含む。発育して果実となる。子房ががくより上にあるときを子房上位、下にあるときを子房下位、中間にあるときを子房中位という。下位は上位のものより進化したものと考えられている。
- 雌雄異株（しゆういしゅ）：雄花、雌花が別の株につくこと。高等な動物では雄と雌がべつべつの個体なのがふつう。
- 小花（しょうか）：キク科の頭花を構成している1つ1つの舌状花や筒状花のこと。また、イネ科、カヤツリグサ科では小穂を構成している1つの花を指す。
- 小穂（しょうすい）：イネ科、カヤツリグサ科の花序のこと。
- 腺点（せんてん）：通常、葉の表面にある分泌物をためた小さな袋、または細胞間のすきま。
- 総苞（そうほう）：キク科の頭花、セリ科の散形花序などに花序の軸が極端に短縮し苞葉が花序の基部に密集した全体を指す。
- 側弁（そくべん）：スミレ属の花の5枚の花弁のうち左右一対の花弁。
- 側脈（そくみゃく）：葉の中央脈から左右に分かれて出る支脈。
- 対生（たいせい）：互生の項参照
- 托葉（たくよう）：葉柄の基部にある付属体で、ふつうは一対の小さい葉状をしているが、ときに合生したり、変態してとげに変わったりする。
- 地下茎（ちかけい）：地中にできる茎を指す。その形で根茎、球茎、塊茎、鱗茎などと呼ぶ。
- 抽水植物（ちゅうすいしょくぶつ）：根は水底の土中であって、植物体の主要部は水面から抜け出して生育する植物。ガマ、アシ（ヨシ）など。挺水植物（ていすいしょくぶつ）ともいう。
- 柱頭（ちゅうとう）：通常、めしべの先端部にあつて花粉を受ける部分。
- 沈水植物（ちんすいしょくぶつ）：クロモ、カナダモなどのように、植物体が水中に沈んで生活する植物。
- 胚珠（はいしゅ）：子房のなかにつぐられ、受精し発達して種子となるもの。
- 浮遊植物（ふゆうしょくぶつ）：根が水底に固着することなく、植物全体が水面に浮いて生育する植物。ウキクサ、ホテイアオイなど。
- 苞穎（ほうえい）：イネ科の小穂の基部にあるその腋に小花をつけない穎。一対あつて基部から第1苞穎、第2苞穎と呼ぶ。
- 葉耳（ようじ）：葉身の根元が両側から耳状に突き出した状態の突起物。
- 葉序（ようじょ）：葉の茎への付き方。
- 葉鞘（ようしょう）：葉の下半分が鞘になって茎をつつむ部分。単子葉植物に普通見られ、イネ科、カヤツリグサ科でよく発達している。
- 葉柄（ようへい）：葉の柄の部分。
- 葉脈（ようみゃく）：葉身に通る水や養分を通す管（管束）をいう。網状脈（双子葉）平行脈（単子葉）に大別する。
- ロゼット（ろぜっと）：根元から出た多くの葉を地表に放射状に広げた状態。太陽の光をむだなく吸収しているのである。

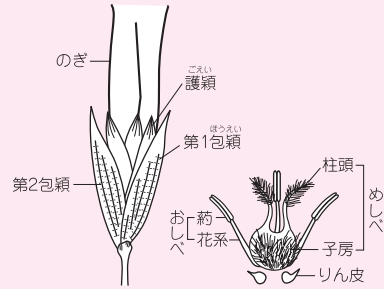
観察力を高めるために——植物の形と各部の名称

⑦ 花の構造

A. 双子葉……4か5が基数

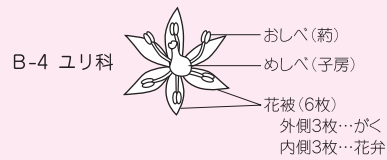


B. 単子葉……3が基数

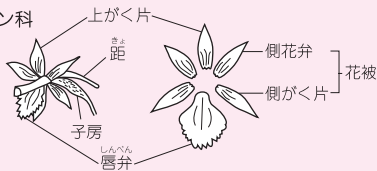


B-1 イネ科の小穂 B-2 小花の模式図

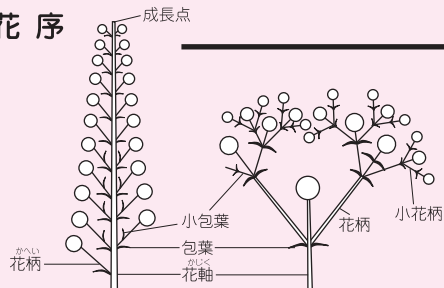
包穎につつまれた小花の集まり



B-3 ラン科



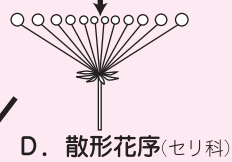
⑧ 花序



A. 総状花序 (マメ科)

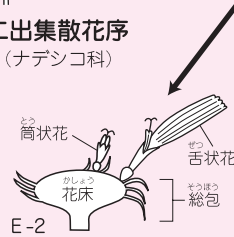
B. 二出集散花序 (ナデシコ科)

C. 散房花序(アブラナ科)



F. 穂状花序 (イネ科)

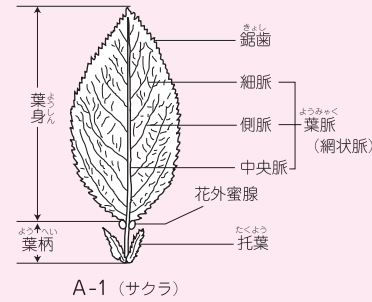
E-1. 頭状花序 (キク科、チューリップ科)



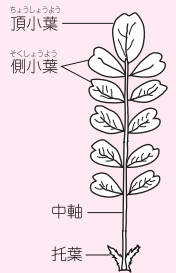
舌状花だけ……タンポポの仲間
筒状花だけ……アザミの仲間
まわり舌状花……ヒマワリ、コスモス
中央筒状花

⑨ 葉の構造

A. 単葉



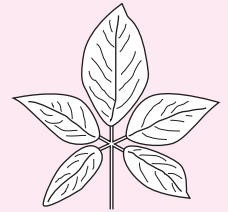
B. 複葉



A-2 (タンポポ)

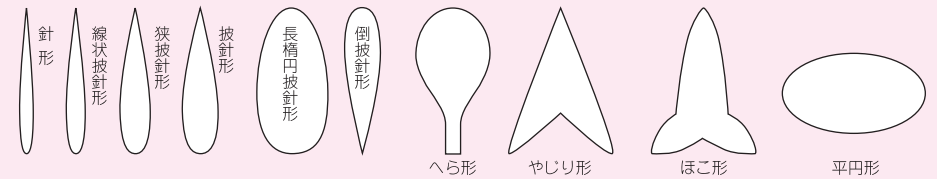
B-1 奇数羽状複葉 (レンゲ)

⑩ 葉序 (葉のつき方)

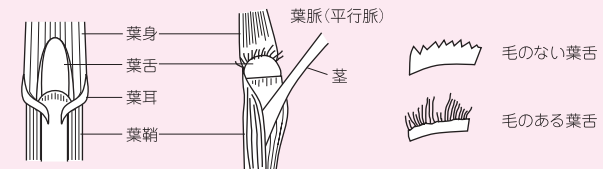


(注) 上下重ならないよう互いに少しずつずれて着く。

⑪ 葉や花弁の形



⑫ 葉舌 イネ科、カヤツリグサ科の種の判別となる構造



春に見られる植物



ノミノフスマ

(ナデシコ科)

荒地、田のあぜ、道ばたなどに生える2年草。茎は高さ15~25cm、^{かぶしょう}株状で枝を分け、全体に無毛である。葉は柄がなく、長さ1~2cmで長楕円形。4~6月に茎の先に白色の小さい花を開く。花びらは5個あるが、深く切れ込むので10個のように見える。日本名は小形の葉をノミのふとんに見立てて付けられた。

麻機遊水地では全

工区に生えています。湿地に生えている草の中では小さい方です。



ケキツネノボタン

(キンポウゲ科)

水田のあぜや溝などに生える2年草。キツネノボタンに似ているが茎や葉に立った毛が多く、その果実の先が曲がらないことでキツネノボタンと区別できる。草丈30~50cmで



4月~6月に枝先に径1cmほどの黄色の5弁花を開く。花びらに光沢がある。果実は多数集って^{ごべんか}金平糖状となる。

麻機遊水地ではセリの生えるような湿った所が好きな草です。有毒なので姿の似ているセリと間違えて摘まないようにしましょう。

タガラシ

(キンポウゲ科)

湿った田や溝に生える2年草。茎は直立し筒状。高さ40~50cmでよく枝分かれする。茎葉は^{ごせい}互生で、手のひら状に3つにさけ、光沢がある。4~5月に径8~10mmの黄色の5弁の花を開く。花後の実のかたまりは長楕円形である。毒を含み、^{から}かむと辛みがあるのでこの名がある。

麻機遊水地では常に水があるような所に生育し、花のない時でもつやつやした葉が目立ちます。

有毒なので、セリ摘みの時などには気をつけましょう。





イヌガラシ

(アブラナ科)

野原、道ばたや庭などに生える多年草。根は白色で地中に深くのびる。茎は枝をよく出し、高さ20～40cmで全体に毛がない。根生葉は羽状に分裂し、先端の羽片が最も大きい。縁にふぞろいの鋸歯がある。4～8月に径4～5mmの黄色い十字形の花を開く。実は細長い円柱形で、少し内側に曲がってつく。



麻機遊水地では少

し乾いた所が好きなようです。スカシタゴボウと姿も味も似ています。実の形など比べてみてください。



スカシタゴボウ

(アブラナ科)

川原や田のあぜ、溝などの湿り気のある所に生える2年草。茎は直立し、高さ30～50cmで枝を分ける。葉は深く切れ込み、柄がなく基部は茎を抱く。花期は5～10月で黄色で小さい十字形の花を多数開く。実は長さ4～7mmの長楕円形。日本名は根がゴボウに似ているので名付けられた。



麻機遊水地ではタ

ネツケバナほど多くはありませんが、同じような所を好み生えていて、食用にもなります。

タネツケバナ

(アブラナ科)

水田や水辺の湿地などに生える2年草。茎は紫色をおび、高さ10～30cmぐらいで、下部からよく枝分かれする。葉は互生。3～6月ごろ、枝先に総状花序を出し白色の小さい



十字形花

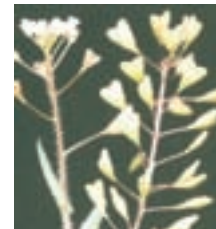
を10～20個、つぎつぎとひらく。種もみ(注)を水につけ、苗代の準備を始めるころ、花を咲かせることから、この名がある。

麻機遊水地では一般的な水田雑草ですが、春一番、一面に花を咲かせ、湿地によくあう植物かと思います。食卓に花でも飾ってみたいですね。

ナズナ

(アブラナ科)

畑や野原、道ばたなどに生える2年草。春の七草のひとつ。根生葉は有柄で長さ10cmほどで羽状に深く切れこみ地面にはりついている。茎につく葉は無柄で茎を抱く。3～6月に高さ10～30cmの総状花序に白色の小形の4弁花をつける。花後に結ぶ実の形が三味線のパチに似ることからペンペン草の別名がある。



麻機遊水地では少

し乾いたところで見られるが、それほど多くはないので七草摘みの時は見つけるのが大変かもしれません。



(注) 種まき用にとってあるもみ米。



セイヨウカラシナ

(アブラナ科)

西アジア原産の帰化植物(注)。畑や川沿いの土手などに群生している2年草。茎は直立し高さ30～80cm、無毛で白緑色。葉は下部のものは長さ30cmぐらいになり羽状に裂け、縁に鋸歯があるが上部のものには鋸歯がない。花期は春、黄色の十字形花で径1cmぐらい。葉をかむと辛い。

麻機遊水地では特に、巴川、浅畑川の

土堤に大群生します。最初(20年前頃)の出現は人為的か、そうでないかはわかりません。食用になります。



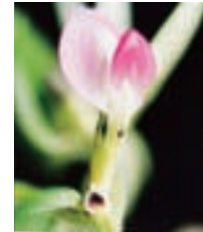
カラスノエンドウ

(マメ科)

土手、草地や道ばたなど人里の近くに生える2年草。茎はつる状で四角形。長さ60～90cm。葉は8～16枚の小葉に分かれ、先端の葉は3個の巻ひげになり、他のものからみつく。花期は3～6月で、葉のつけ根に蝶形の花を1～3個つける。花後の

豆果の中に10個ほどの種子ができる。これに似た小形のスズメノエンドウは種子が2個、中間の大きさのカスマグサは種子が3～4個である。

麻機遊水地では昔も今も生えている一般的な草です。スズメノエンドウ、カスマグサと同じ仲間ですが、違うところが多くあるので見つけてみましょう。

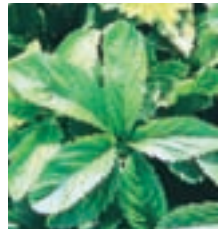


オヘビイチゴ

(バラ科)

田のあぜや縁などの湿った所に生える多年草。茎は高さ20～40cmで大きな株になる。根もとから出る葉は5小葉で茎の上部の葉は3小葉で互生。5～6月に径15mmぐらいの黄色い花を多数つける。花後、実がぐに包まれている。ヘビイチゴのように赤い実はない。

麻機遊水地では全区の湿地に生え、特に第3工区に多く見られます。春には花がよく目立ちます。



アリアケスマレ

(スミレ科)

低地のやや湿り気のある所に生える多年草。白色の花弁に紫色のすじがあり、側弁の基部に毛がある。花の色が白色から紫色をおびたものまで、変化にとむ花色を「有明の空」

になぞら

えて、つけられた名前です。花期は3～5月上旬。葉は多数ついて、大株になり葉柄の上端にせまい翼がある。

麻機遊水地では第3、第4工区に、少数生えています。20年前頃の見事な群生(第3工区)は最もよみがえってほしい眺めです。





オオフサモ

(アリノトウグサ科)

南米ブラジル原産の帰化植物。池や沼、川岸に群生する抽水植物で多年草。茎は円柱状で泥中や水中に枝を分けながら、這って1m余りになる。茎の節から白色の糸状根を出し、長さ10～30cmの水上茎を直立させて水面をおおう。5～6月には葉のわきに小さい白い花を1個ずつつける。



麻機遊水地では特

に第4工区の池に大繁茂している草です。20年前には珍しい草だと思いましたが、放置すれば水質汚染にもなり除草しなければなりません。

ヒメオドリコソウ

(シソ科)

ヨーロッパ原産の帰化植物。日当たりのよい草地や道ばたに生える2年草。草丈は10～25cmになる。葉は対生し卵円形で縁に鋸歯がある。上部の葉は暗紫色をおびる特徴がある。4～5月に上部の葉のわきに暗紅色の小さい唇形の花を輪状につける。まれに白色もある。



麻機遊水地では他で見えるような群落はありません。幼苗の頃に

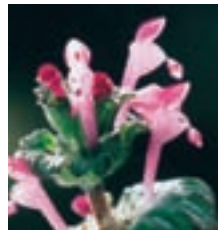
ホトケノザと本種を見分けるには、ホトケノザは柄がありませんが、この草は上部の葉まで柄があるので見分けられます。



ホトケノザ

(シソ科)

畑や道ばた、草地に生える2年草。茎は高さ10～30cm。葉は対生、下方のものは長い柄があるが上方のものは柄がなく、左右から茎を抱き合い、その基部に数個ずつ柄のない花を輪生する。花期は3～5月で紅紫色で唇形。日本名は対生する葉を「佛さまの蓮台」に見立ててつけられた。



麻機遊水地では乾いた所に生えます。

早春の頃より咲き、レンゲ畑と見間違えてしまうこともあります。「春の七草」の一つではありません。

ヤセウツボ

(ハマウツボ科)

欧州原産の帰化植物。草地に生え、マメ科、キク科などの草の根から養分を吸い、春から初夏にかけて地上に出現する寄生植物。全体に葉緑素を欠き、茎は褐色の腺毛を密生して高さ20～50cmになる。葉は鱗片状でまばらに互生する。4～5月、茎の上部に淡黄色で紫色の斑点のある唇形の花を密に穂状につける。



麻機遊水地では昨年第3工区に、今年は第4工区に多く出現しました。まわりの草と一風変わった姿にびっくりします。





キツネアザミ

(キク科)

田のあぜなどの湿地に生える2年草。茎は高さ60～90cmになり、よく枝分かれする。全体に白い綿毛をかぶる。葉はやわらかく羽状に深くさける。とげはない。茎の葉は互生。花期は5～6月、頭花は紅紫色で径2～3cmほどで枝先に上向きにつく。一つの花のように見えるのは筒状花の集まり。



麻機遊水地では全工区に点在しているが、昔のように、子供の遊びに使うほどの数は生えていません。野の花ではきれいです。

ハルジオオン

(キク科)

北米原産の帰化植物。荒地、道ばたなどに生える多年草。茎の高さ50～100cm、白毛が密生し、中空である。茎につく葉は互生で葉柄がなく基部は茎を抱く。花期は4～6月で頭状花は



径1.5～2.5cm。舌状花は淡紅紫色、筒状花は黄色。つぼみの時に花枝が下に曲がる。

麻機遊水地では第4工区に見られますが、種子でふえるヒメジオオンほどではありません。多年草ですが、寿命が短いせいかも知れません。



コオニタビラコ

(キク科)

水田、田のあぜ、道ばたなどに生える2年草。別名タビラコ。田平子とは、水田に口ゼット状の根生葉を広げたようすをあらわしたものの。若葉は食用となり春の七草のひとつのホト



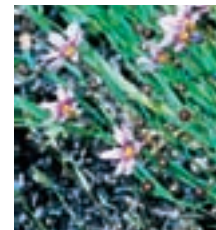
ケノザはこの草のこと。草丈10cmほどで3～5月に径1cmほどの黄色の花を開く。

麻機遊水地では田んぼや休耕田のあった頃は、星をちりばめたように黄色の花を咲かせましたが、年ねん少なくなり七草摘みに出かけても、なかなか見つかりません。

ニワゼキショウ

(アヤメ科)

北米原産の帰化植物。荒地、道ばた、芝生の中に生える多年草。茎は高さ10～30cmで扁平でせまい翼がある。葉は剣状で互生し基部はさやとなって茎を抱く。4～6月、茎の先に3～5個の花柄を出し紫色の小さい花をつける。花弁は6枚で1日でおれるが



つぎつぎに新しい花を開く。

麻機遊水地では乾いた所に生えます。昔はナンキンアヤメと呼んで庭に植えたものです。最近では、オオニワゼキショウのほうが多く見られるようになりました。





スズメノテッポウ

(イネ科)

水田や湿地に群生する1年草。高さ30cmほど、茎は中空の円柱形。葉は白っぽい緑色。花期は4～6月。円柱形にまとまって細長い穂になってつく。おしべが橙黄色なので、穂全体が橙黄色になる。本種に似ているセトガヤは黄白色をしているので区別できる。

麻機遊水地では田んぼがなくなり、一面の出穂風景は見られなくなりましたが、湿地にはまだ生えます。麻機地区ではシーピーピーの名で親しまれています。



ムツオレグサ

(イネ科)

湿地や水田に群生する多年草。茎の基部は倒れて、斜めに立ち上がる。葉は細く、紅葉色となり、水面に浮かんで越冬し、春になると土中を横に這い、各節から茎、ひげ根を出す。5月頃、茎の頂きに細長い緑色の花穂を出す。ばらばらに折れやすいという意味で脱

落しやすい穂からつけられた名前である。

麻機遊水地では昔から多く、イネ科の中では早く穂をつけ、比較的目立っていましたが、今は少なくなっています。第1、第3工区では多く見られます。



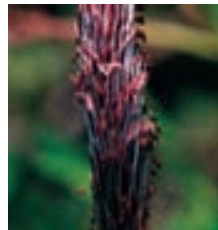
チガヤ

(イネ科)

川原や土手などの乾いた所に群生している多年草。茎の長さ30～70cmで葉は線形。根茎は白く地中を長く這う。この根茎を漢方で茅根といい、利尿などの薬用とする。5～6月に長く伸びた茎の先に銀白色の花穂をつける。若い花穂は甘みがある。

麻機遊水地では乾燥化が進み、春には一面の穂波が美しい。湿地には、このチガ

ヤより1ヶ月位早く出穂する節に毛のない種のケナシチガヤも生えています。



ショウブ

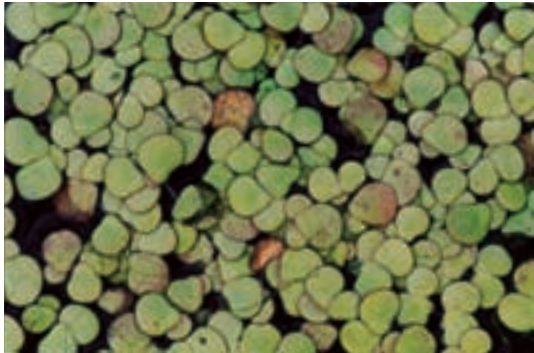
(サトイモ科)

池のふちや溝の近くに生える多年草。群落をつくる。根茎は横に長く這い、節が多く、多肉質で白色であるが赤味をおびる。葉は根茎の端に直立し集って出る。全体に香りがある。長さ50～100cm。5～8月に花茎の先に肉穂花序をつける。端午の節句に使うショウ

ブ湯はこのショウブを用いる。

麻機遊水地は昔から多く生えていましたが、今は少なくなりました。ふえて欲しい植物です。第4工区の1部と第3工区で見られます。乾かしてタンスの防虫剤になります。





ウキクサ

(ウキクサ科)

水田、溝、池沼などの水面上に浮遊する1年草。葉全体は扁平な倒卵形で長さ5～6mm、3～4枚が集って水に浮かび裏面から5～11本の根を出す。5～8月に葉の裏面に白

花をまれにつける。アオウキクサは小形で葉の長さ2～3.5mmで根は1本である。ウキクサは裏面が紫色であるがアオウキクサは紫色にはならない。

麻機遊水地では多く見られる草です。春には越冬した種芽が水面に浮上します。他のウキクサ類と、根の様子などを比べて見ましょう。



アゼナルコ

(カヤツリグサ科)

湿った草地、川岸、水田のあぜなどに生える多年草。大きな株となり茎は高さ40～70cmで切り口は三角形でざらつく。根茎は短い。5～6月に茎の頂きに垂れ下がった5、6個の小穂をつける。最上部の穂に先が雌花、元の方に雄花をつけ、その他の小穂は雌花である。雄花部は色が異なり、少し細くなるのでははっきりわかる。



麻機遊水地では昔も今も変わらず生えている草の一つです。池沼に多く、穂の垂れ下がる姿は鳴子（昔の雀除けの道具）のようでよく目立ちます。



アゼスゲ

(カヤツリグサ科)

川岸や水田のあぜ、湿地などに生える多年草。茎は高さ30～50cmで地面を這う茎を出す。葉は線形で3mm以下、縁はざらつく。春、茎の頂きに1～2個の雄花の穂をつけ、その下に2～3個の雌花の穂をつける。雌花の穂は黒っぽい茶色で真直ぐに立つ。雌花の穂の下のものには長い葉状の苞がある。



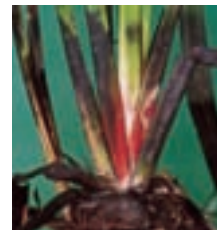
麻機遊水地では特に第3工区に群生していますが、昔ほどではありません。春に葉と共に茎を出した姿も良いですが、小穂の緑と褐色のコントラストもすばらしいです。



カサスゲ

(カヤツリグサ科)

沼や水辺に生える大型の多年草。地下茎は横に這い、群生する。茎は三角形で高さ40～100cmで大きな株となり、基部のさやは紫褐色である。葉は幅5～8mmでかたい。4～7月、茎の頂きに雄穂、その下に雌穂がつく。葉を乾かして蓑やすげ笠などを作るのでこの名がある。



麻機遊水地では昔からすげ笠用に多く栽培されていたものが、現在残って生育していると思われます。笠作りが復活したら紫外線防止には最高ですね。



絶滅の恐れのある植物

※環境省による絶滅危惧種のランク指定。() 内は静岡県の指定。



ホンバナニガナ (キク科) …………… EN (VU)

多年草。全国的にもごくまれな植物(本州～九州に分布、麻機沼では1999年に初確認の記録あり)。花茎の高さ30～40cm、直立し上方で分枝。葉は線形～線状披針形、茎を抱かない。頭花径6～7mm(ニガナ10mm)舌状花は黄色、6個。冠毛は汚白色、6mm。花期4～10月



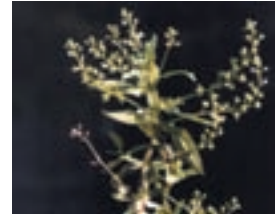
ノニガナ (キク科) …………… (N-III)

1年草。日本全国に分布するがまれな種。無毛、花茎の高さ15～50cm、先端に頭花が咲く。舌状花は黄色、15～25個。花茎につく葉は基部が矢じり形で茎を抱く。根出葉は羽状に深く切れこむ。冠毛は純白。花期4～6月



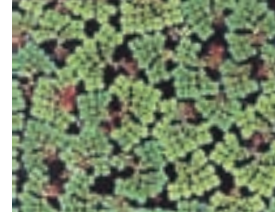
ミゾコウジュ (シソ科) …………… NT (NT)

2年草。高さ30～50cm。羽化時の昆虫の羽を思わせるしわのあるロゼット葉で越冬。花時には根出葉なし。花は小さく唇形、淡青色、5～6月に咲く。県内では伊東から湖西まで広く分布するがいずれもまれ('84年の記録)。近年、農薬、遷移、開発などにより一層、生育地が減っている。



カワヂシャ (ゴマノハグサ科) …………… (NT)

2年草。茎は軟らかく無毛。高さ20～60cm。葉は柄がなく対生、縁はゆるく波打つ。5～6月、径4mm、4弁、淡青紫色の花が穂となる。苗のときはワスレナグサ(むらさき科)に似る。若い葉は食用になる。近年、帰化種のオオカワヂシャに生育地を奪われつつある。



アカウキクサ (アカウキクサ科) …………… VU (VU)

小型の浮遊性シダ植物。葉の長さ1.5cm、全体が三角形、夏は緑色、秋から冬にかけて濃赤色となる。根毛は多数束になってつく。'89年頃までは県西部(大井川以西)でしか確認されていなかったが、2003年突如麻機遊水地で大繁殖。生育地が著しく減っているため保護が望まれる。

ぜつめつきくしゅ 絶滅危惧種

- レッドデータブック：絶滅のおそれのある野生生物の個々の種の生息状況をまとめた刊行物。最初に刊行された国際自然保護連合の本の表紙の色が赤(レッド)だったことに由来する。環境省が発行している植物の最新版は『改定・日本の絶滅のおそれのある野生生物(植物Ⅰ・Ⅱ2000)』
- 静岡県レッドデータブック：静岡県内に生息・生育している動植物を保全するための基礎資料として静岡県が作成したもの。植物・昆虫・鳥類など8分野群から1,048種が取り上げられている。

植物特定種と珍しい植物の位置付け(環境省・1997のカテゴリー)

- 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)：絶滅の危機に瀕している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。
- 絶滅危惧ⅠA類(CR)：ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。
- 絶滅危惧ⅠB類(EN)：ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。

絶滅危惧Ⅱ類(VU)：絶滅の危険が増大している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。

準絶滅危惧(NT)：存続基盤が脆弱な種。現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。

* 静岡県環境森林部自然保護室刊行の静岡県版レッドデータブック「植物編」のカテゴリーは環境省のレッドデータブックのカテゴリーに「要注目種(Noteworthy)」が加えられた。

N-I：現状不明＝過去の記録はあるが、その後30年間情報が得られていない種(偶産種は除く)。

N-II：分布上注目種等＝分布が極限されている種。その他静岡県で遺伝的、形態的に特異な種。

N-III：部会注目種＝各専門部会において、学術上・自然保護上注目すべきと判断された種。

注：植物では、種、亜種および変種を示す。

夏に見られる植物



イシミカワ

(タデ科)

原野や林縁^{りんえん}に群生するつる性の1年草。葉の表面を除き全体に下向きのとげがある。葉柄は葉身の下面につく。托葉はまるい楕形。花は枝先に穂状になってつき、まるい楕状^{ぼつよう}の苞葉が穂を受け止めている。黒い球形^{かじつ}の果実が青いがくの中に包まれている。

分布：日本全土

花期：7～10月

麻機遊水地では湿地、乾地共に生えて

います。とげは憎々しいほどですが、実のように見えるがくの色が青や紫と、可愛らしくそしてきれいです。



ママコノシリヌグイ

(タデ科)

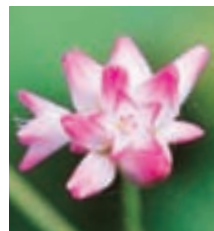
原野とくに水辺に群生する1年生つる草。全体に下向きの短いとげが密生し物によじ登る。葉はほぼ二等辺三角形。葉柄のつけ根に短いさや状托葉^{たくよう}が茎を包み円形の葉状となる。花は花弁^{かべん}がなく紅色。花後、5深裂^{しんれつ}のがく片が、黒色でほぼ球形^{かじつ}の果実

を包む。

分布：日本全土

花期：6～10月

麻機遊水地では全工区に見られます。イシミカワと同じようなとげがあり見るからに痛そうです。花はよく見るととてもきれいです。



ハス

(スイレン科)

インド原産で古代中国から渡来した多年草。地下茎は秋に肥大し蓮根^{れんこん}として食用になる。葉は地下茎から水上に出る。夏、水上に直立した花柄の先に、紅や白^{かべん}の花弁が多数重なった花を

つける。

花托はロート状で、孔に果実^{あな}が入った様子は蜂の巣^{かじつ}のよう^{はちす}。

分布：各地に植栽。花期：7～8月

麻機遊水地では代表的な植物です。群生している景色は昔は見られませんでした。まだまだふえてほしい植物の一つです。





マツモ

(マツモ科)

やや澄んだ池や沼の水中に生える沈水性の多年草。茎は20～40cm。根ではなく仮根で水底の泥に固着する。葉は松の葉のように糸状にさげ5～12個が輪生する。花はごく小さく、



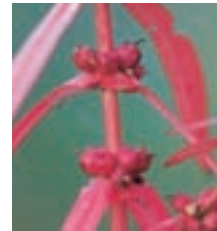
めしべだけの雌花と、おしべだけの雄花とがある。
分布：日本全土。花期：6～8月。

麻機遊水地では昔は見られなかった植物ですが、15年位前より第3、第4工区の池の中に大群落が見られます。花はなかなか見られません。

ホソバヒメミソハギ

(ミソハギ科)

熱帯アメリカ原産の1年草。無毛で茎はよく枝分かかれし、高さ50～80cm。葉は細い披針形で無柄、基部は耳状にとがり四角形の茎に對生する。夏、葉腋に短い柄のある淡紅色の4弁花を左右2個ずつつける。果実は球形、径3～4mm、赤褐色で光沢がある。



分布：本州～九州
花期：7～9月

麻機遊水地では湿地に多く見られます。休耕田の多かった頃よりは少なくなっています。秋には全体が紅色になり目立ちます。

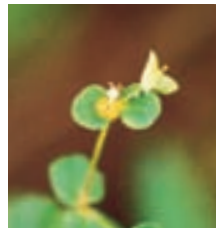


コケオトギリ

(オトギリソウ科)

田や湿地に生える1年草。茎の高さは5～20cm、よく分枝し、切り口は四角形。葉は對生で卵形、基部は広がって茎を抱く。葉裏には透明点が散在する。花は径5～7mmで橙黄色。がく片5、花弁5、おしべ5～10本、めしべは3花柱。

分布：北海道を除く
全国
花期：7～10月



麻機遊水地では全工区の湿地に点々と生えています。田んぼがなくなると共に減ってきました。可愛らしい草で昔は螢籠によく入れたものです。

ヒシ

(ヒシ科)

1年生の浮遊植物。水面にのばした茎の先端にひし形の葉を多数つける。葉柄に空気袋があり浮く。茎のところどころに葉緑素を含む水中根が對生する。葉腋に白い4弁の



小さい花をつける。果実の両端に鋭い2本のとげがある。(オニヒシ、ヒメヒシには4本) 分布：日本全土。花期：7～10月。

麻機遊水地では第3、第4工区共多く、釣人には嫌われる植物のようです。昔のように汚染された水でなければ、食用、薬用共にすぐれものなのに残念です。





メマツヨイグサ

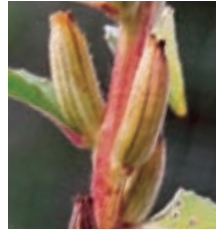
(アカバナ科)

北米原産の2年草。高さ150cm位。茎葉の形状はオオマツヨイグサに似るが、
①根生葉の先はとがり葉面が波打っていない、②葉の中央脈は赤色を帯びている、③花の直径が半分の4cm位などで区別できる。夜、黄色の4弁花を開き翌朝しぼむ。

分布：全国

花期：7～9月

麻機遊水地では夏によく目立つ草の一つで、どの工区でも見られます。夕方になると咲く花のしくみなど調べてみたいですね。



セリ

(セリ科)

湿地や田んぼに生える多年草。食用となる野草で春の七草のひとつ。茎は高さ20～50cm、無毛、揉むと特有の香りがする。葉は2回奇数羽状複葉、小葉には鋸歯がある。茎頂に多数の小さい白色花をつけ、傘状の花序となる。花弁5個は内側に曲がる。

分布：日本全土

花期：7～8月

麻機遊水地ではおなじみの草で数もそれほど減少してはいないが、水質汚染などもあり、のどかな摘み草風景はもう無理でしょうか？



ホザキノフサモ

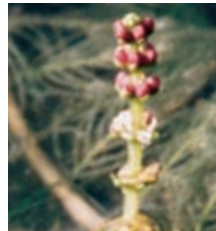
(アリノトウグサ科)

沼や川に生える沈水性の多年草。茎は円柱状で径2～3mm、長さ1m以上、水底の泥中に根をのぼす。葉は羽状で4枚輪生。花は茎の先端に穂になってつく（上方が雄花、下方が雌花）フサモは水上の花枝に葉を、オオフサモは葉の白っぽい緑で見分ける。

分布：日本全土

花期：5～10月

麻機遊水地では以前第3工区の池沼一面に見られましたが、いつの間にか姿を消し、現在はわずかに残っているだけです。



ヌマトラノオ

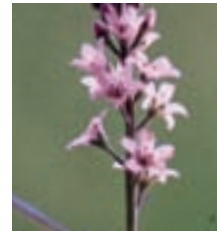
(サクラソウ科)

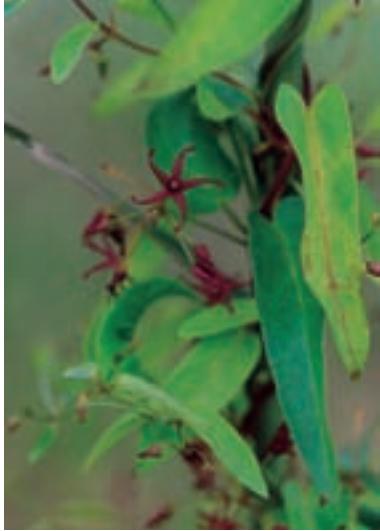
日本各地の湿地に生える多年草。茎の高さ50～100cm。葉は全縁、ふちには毛がなく葉身に油点が散在する。茎の頂に径5mmほどの白花が集まり直立した総状花序をつくる。5枚の花弁に重なった5片のがくは深く裂け、背面には黒点がある。

分布：本州～九州

花期：7～8月

麻機遊水地では多く生えそうな湿地の草ですが、実際は少なく第3工区で1か所確認しています。





コバノカモメヅル

(ガガイモ科)

山野に生える多年草のつる植物で、茎が伸び他物に巻きつく。葉は対生、短い柄があり広披針形で全縁。夏期に葉腋から短い花柄を出し暗紫色の花をつける。花の中心に副花冠・めしべ・おしべが集まったずい柱がある。綿状の冠毛をもつ種子は風で飛ぶ。

分布：本州の関東以西

花期：7～9月

麻機遊水地では以前どこにでも生えていま

したが、現在では第3工区にわずかに見られるだけです。まれに白花のアズマカモメヅルを見ることがあります。



ホシアサガオ

(ヒルガオ科)

熱帯アメリカ原産のつる性1年草。他の草木に絡み長さ数メートルになる。葉はハート型または深く3裂し各裂片の先はとがる。葉腋から葉柄より長い花序を出し、先端部に3～6個の星形・ロート状の径1.5cm位の淡紅色の花が、花柄にはイボ状の突起が

ごくまばらにある。

分布：関東以南

花期：7～10月

麻機遊水地ではどこでも見られます。花は小さいけれど目立ちます。その他、花が白色のマメアサガオ、ホシアサガオと同色のペニバナマメアサガオがあります。



ホンバノヨツバムグラ

(アカネ科)

ヤエムグラの仲間15種類のうち湿地に生える唯一の多年草。茎の長さ30cm位、切り口は四角形、下向きにとげがある。葉は4～5枚が輪生し先端はまるく、縁と下面に下向きの短毛がある。花冠は白色3裂。押し葉にするとすぐ全体が黒色に変わる。

分布：日本全土

花期：6～8月

麻機遊水地では湿

地に生えています。草丈のある草の中でも真っ白な花を誇らしげに咲かせます。土地が乾燥化すれば見られなくなります。



アレチハナガサ

(クマツヅラ科)

南米原産の多年草。高さ2m位。全体に剛毛がありざらつく。茎の切り口は四角形でよく枝分かれする。上の葉は無柄で広線形、先の半分に鋭鋸歯があり対生する。茎の頂で分岐し先端に2～3mmの穂状花穂を多数つける。花冠は淡青紫色、5裂、径

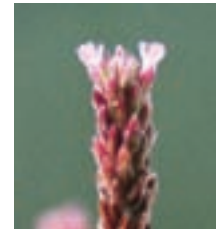
3mm。

分布：関東以西

花期：6～9月

麻機遊水地では最

近目立って多く見られるようになった帰化植物です。少し前まではヤナギハナガサが多かったのにどうしてでしょうか？





ヒメサルダヒコ

(シソ科)

「ヒメ」は小さい、「サルダヒコ」はシロネの小形を指す名称。湿地に生える多年草。茎は高さが10～30cm、切り口は四角形、よく枝分かちして地面を這い、節から根を出し繁殖す

る。葉は対生、縁に鋸歯がある。花は白色小形の唇形、花冠は4裂。分布：本州、四国、九州。花期：8～10月。

麻機遊水地ではこれまでごくわずかに生えているだけでしたが、第3工区では、多く見られるようになりました。



アメリカタカサブロウ

(キク科)

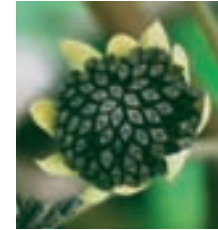
休耕田や田のあぜに生える1年草で帰化植物。茎は高さ20～60cm、よく枝分かちし、毛がありざらつく。葉は対生、縁に細かい鋸歯があり両面ざらつく。頭花は直径1cm以下で在来のタカサブロウより小さく、果実に翼がないことで区別できる。

分布：本州～九州

花期：7～9月

麻機遊水地では全工区の湿地に多く生

えています。タカサブロウもまれに見られますが、在来のタカサブロウをいつ追いついたのか気付きませんでした。



アゼムシロ

(キキョウ科)

湿地に生える小さな多年草。茎は長さ20cm位、根を出しながら地を這い、先端だけ立ち上がる。葉は長さ1～2cmで披針形、柄はほとんど無く互生する。花冠は5裂し、白色が淡紅色。開花の初期は雄性、後に雌性期となる花の性転換をする。

分布：日本全土

花期：6～10月

麻機遊水地ではあぜなどでよく見られ

ましたが、田んぼがなくなり少なくなりました。



クワモドキ

(キク科)

北米原産の大形1年草。茎の高さは1～2.5m、太さ2～4cm、荒い毛が生えている。葉は掌状に3～5裂し、両面ともざらつく。枝先の細長い雄花の穂が吐き出す多量の花粉は花粉症をひき起こす原因のひとつ。雌花は、雄花穂の基部に、苞に包まれてつ

く。全国の空き地に帰化している。

花期：9～10月

麻機遊水地では他所に比べ侵入は遅く、目立ちはじめたのはつい最近で、種子のできる前に刈り取ります。強害草第1位です。





ホテアオイ

(ミズアオイ科)

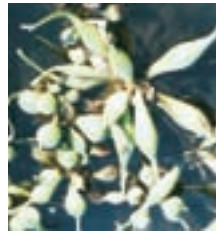
熱帯アメリカ原産の多年草。茎は水中にあり葉を叢生する。葉は無毛で光沢がある。葉柄の基部がふくらみ浮き袋の役目をする。束生する葉の間から長さ20cm位の茎を1本出し、径3cm位の淡紫色の6弁花を多数つけて総状花序をなす。

分布：南関東以西

花期：7～9月

麻機遊水地では最近第3、第4工区の

池沼に大繁殖しましたが、除草作戦が成功し、ほとんど見られなくなりました。持込禁止の草です。



コウガイゼキショウ

(イグサ科)

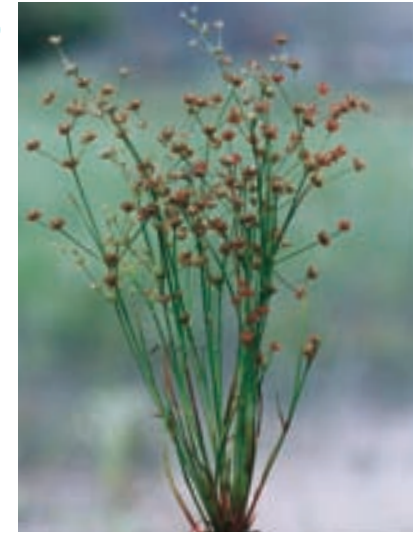
湿地に生える無毛の多年草。多くの茎が、束になって出て、高さ20～40cmぐらいになる。茎、葉ともに扁平である。茎につく葉と根生葉は共に線形で先がとがる。茎の頂に淡緑色の花が3～8個ずつ集まって多数つく。苞は葉状で花序より短い。

分布：日本全土

花期：6～7月

麻機遊水地では全工区の湿地に多く生

えています。同じ仲間です。似たようなヒロハコウガイゼキショウやタチコウガイゼキショウなどあります。



イ

(イグサ科)

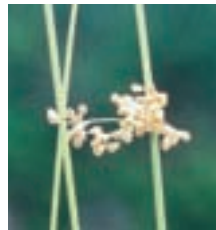
日当たりの良い湿地に生える多年草で、畳表の材料として栽培される。茎は緑色の円柱形で高さ0.7～1m。葉は褐色の鱗片状。花は小さく緑褐色。果実は径2～3mm。茎の上部に花序がつき、その上の茎状のものは苞葉。(ホソイは茎に縦溝多数)

分布：日本全土

花期：6～9月

麻機遊水地では休耕田があった頃は栽

培しているかのように見られましたが、今はわずかに群生しているのを見るほどになりました。



ケイヌビエ

(イネ科)

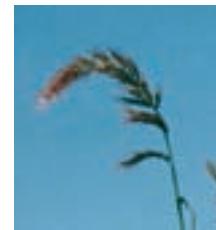
湿地でよく見られる1年草。母種はイヌビエ。小穂に紫褐色の長いのががある。茎は根元で分岐し高さ0.6～1.2m。葉は長さ20～50cm、幅4～15mm、イネとちがい葉舌がない。茎の頂に花序がつく。小穂の長さは3～4mm。

分布：本州～九州

花期：8～10月

麻機遊水地では全工区共に多く、アシ

やオギの穂の出る前は一面黒っぽくなり目立ちます。晩秋には雀の群で賑わいます。





チクゴスズメノヒエ

(イネ科)

北米原産のキシウスズメノヒエの変種。キシウスズメノヒエと比較して、全体的に大形で葉鞘や節に白い毛が密生している。また、穂の枝は2～3本でキシウスズメノヒエよりやや長い。生育地は、水路をはじめ池の深い所まで進出している。

分布：世界の熱帯～

温帯

花期：7～10月

麻機遊水地では全

工区、特に湿地に生育している困り草の一つです。20年前からふえはじめました。どうしたら減ってくれるのでしょうか？



チゴザサ

(イネ科)

水辺の湿地に群生する多年草。茎の高さ30～40cm、太さ1～1.5mm、切り口はまるい。葉は互生、長さ3～7cm、幅3～7mm、上面は光沢なくざらつく。花序は高さ3～7cm、数回分裂、小さい小穂を多数つけ、花は花柱が淡紫色、淡紅色の柱頭が顔の外に出て美しい。

分布：日本全土

花期：6～8月

麻機遊水地では湿

地や水路に群生しています。花をよく見ると名前の通り可愛らしくそしてきれいです。



マコモ

(イネ科)

池や沼に群生する大型の抽水植物の多年草。沼底の土中に根や茎があり直立する茎は高さ1～2m。葉の長さ1m、幅3cm、葉の付け根に白い大きい葉舌がある。花序は大きく円すい形、長さ30～50cm、多く枝分かれし枝先の淡緑色の小穂は雌花、下方の紫色は雄花。

分布：日本全土

花期：8～10月

麻機遊水地では池のまわりや湿地に群生しています。昔、沼だった頃の代表格です。ヤナギとマコモ、カササゲ、オギのある風景がなつかしいです。



ヒメガマ

(ガマ科)

沼や休耕田などの湿地に生える大形の多年草。茎の高さ1～2m。葉の長さ80～130cm、幅6～12mm。茎の頂に2～3片の苞葉をもつ10～30cmの雄穂が、下に2～3cm茎をのぞかせ褐色の6～20cmの雌穂をつける。花粉は1つずつ離れている。

(ガマは4つ密着)

分布：日本全国

花期：6～8月

麻機遊水地では池沼や湿地を埋めつくしてしまいそうです。20年前には無かった草です。当時はコガマばかりでした。





カワラスガナ

(カヤツリグサ科)

湿地や水田などに群生する1年草。茎の高さ25～40cm、切り口は三角形。秋、茎頂に2～3枚の苞葉がつき、そこから多くの小穂がかたまつてつく。小穂は赤褐色で偏平、1小穂に15～30花がつく。花柱は果実の3倍位長く、果実は偏平状。

分布：本州～九州

花期：8～10月

麻機遊水地では第1、第3工区の湿地に

多く、草丈も同じようなヒデリコ、テンツキなどと混生することが多く、穂が出ていないと見分けがむずかしい。



ミズガヤツリ

(カヤツリグサ科)

湿地に生える多年草。茎の高さ0.5～1m、径1cm、1本立ちで切り口は三角形。茎頂に花序の枝を5～8本つける。枝のつけ根に細長い苞葉を3～4枚つける。花序には5～10個の小穂をまばらにつける。小穂の鱗片の背の部分に丸みがあるのが特徴。

分布：日本全土

花期：8～10月

麻機遊水地では湿地や池の中に生えて

いる大型のカヤツリグサです。秋になると地下茎の先に小塊茎をつくります。特大の蚊帳も吊れそうです。



タマガヤツリ

(カヤツリグサ科)

湿地や水田に生える1年草。茎の高さ25～60cm。茎の頂に2～3枚の苞葉に囲まれた長さがふぞろいの花序の枝が5～6個つく。枝の先に暗緑色の小穂が集まって径8～15mmのまるいかたまりとなる。球形の小穂集団と折れやすい茎がこの種の特徴。

分布：日本全土

花期：8～10月

麻機遊水地では湿地を代表する草です。

穂が玉の見える姿は名前をおぼえやすいです。折れやすい茎では蚊帳は吊れそうもありませんね。



メリケンガヤツリ

(カヤツリグサ科)

熱帯アメリカ原産の多年草。高さ30～100cm、切り口が三角形の太い茎を叢生する。葉は茎と同長、幅4～8mm、縁はざらつき、基部は鞘となり茎をつつむ。花は総苞の中央部から10本以上の花柄を出し、先に線形・偏平の小穂が球形に密集する。

分布：関東以西の太平洋側各地

花期：7～9月

麻機遊水地では特

に湿地に多く、根も強く張り抜き取ることも困難です。余りふえてほしくない草です。



絶滅の恐れのある植物

※環境省による絶滅危惧種のランク指定。() 内は静岡県の指定。



オオアブノメ (ゴマノハグサ科) ……VU (VU)

1年草。茎は直立し、高さ10～20cm。葉は対生、披針長楕円形、長さ1～3cm。5～7月葉腋ごと1花つける。花冠は白色、筒形、長さ4～5mm (果実が茎をはさんで並ぶさまが蛇の眼に似ている)。かつての水田の害草も麻機沼を含め今では県内5か所ほどで自生している。



ミズツバ (ミソハギ科) ……VU (NT)

1年草。茎の基部は地面を這い分枝し、高さ6～10cm。葉は3～4枚輪生、狭披針形、長さ6～10mm、先はとがる。花期は8～10月。微小な花が葉腋に1つずつ対生につき、花弁なく、がく片が淡紅色。県の東・中部ではもともと少なかったが農薬や湿地の遷移により急激に減少した。



タコノアシ (ユキノシタ科) ……VU (NT)

多年草。茎は立ち、紅色で高さ70cm位。長さ5～7cm、幅1cm位の披針形・無柄の葉を互生。8～10月花序の枝が掌状に出て先が下方に巻く。花は花弁なく、がく片が黄緑色。5室のくつついたタコの吸盤のような果実が花序の分枝に並ぶようすはタコの足のよう。



コツブヌマハリイ (カヤツリグサ科) ……VU (VU)

多年草。高さ30～60cm。茎はまるく無毛、内部のしきり膜はない。葉は茎の根元で鞘となり葉身なく赤紫色を帯びる。6～10月茎の先に1個の小穂をつける。ヌマハリイに比べ花穂が小さい。1988年県内では初めて麻機遊水地で確認された。



ミクリ (ミクリ科) ……NT (NT)

多年生の抽水植物。高さ80～150cm。葉は2列につき、長さ100～150cm、幅1～2cm、断面は三角形。6～8月、花茎は分枝、上に雄花、下に雌花。3稜あるヒシ状卵形の果実が集合し、径15～20mmのクリのイガのような球果となる。(ミクリは“実栗”に由来する)



スズメハコベ (ゴマノハグサ科) ……EN (VU)

本州中部以南の湿地に、まれに見られる1年草。地表を5～10cm伸長する。全草無毛。5～6月、葉腋に2mm位の淡紅色の花を1個ずつつける。和名の由来は、小さいからスズメ、茎が地面をはい、対生の葉をもつハコベ(ナデシコ科)に似ていることによる。



ツツイトモ (ヒルムシロ科) ……CR (VU)

本州～九州の池沼や汽水に群生する沈水性多年草。根茎あり。和名は、托葉が両側で合着し筒状となり、水中茎が糸状で細いことから名づけられた。6～8月、茎の先端部の葉腋から長さ2～4cmの花茎を出し、先端におしべとめしべだけの小さい花を数個つけ穂状花序をつくる。



アサザ (ミツガシワ科) ……VU (VU)

本州以西の平地や池沼に群生する浮葉性多年草。草丈は0.6～1.0m。葉は茎の下部では互生、上部は対生、葉身は径10cmくらいの心臓形、表面に光沢があり裏面は紫褐色。7～8月に葉腋から水上に花茎を出し、キュウリの花に似た黄色い5花弁の花を10数個つける。水深が浅い所に生えることで名づけられた。



アズマツメクサ (ベンケイソウ科) ……(N-III)

北海道～本州の湿地に生える1年草。草丈2～6cm。茎は淡緑色だがしばしば下部が紅色になる。葉は対生で左右が連結している。4～7月頃、葉腋に白色の小さい4花弁の花をつける。和名の由来は、全形がツメクサ(ナデシコ科)に似ている、関東地方で最初に見つけられたから。

植物ウォッチング ノウハウ&グッズ



① 足元の草花に目をとめよう

花壇の花はどのように華やかではないけれど、校庭の片隅、道端、田のあぜ、土手には、可憐な美しい花をつけた草がいっぱい生えています。それぞれに名前がついています。足元に咲く草花を一枝手にとってよく見ましょう。ふだんは見過ごしていた花が思いのほか美しい姿かたちをしている、風変わりな形をしている、よい香りがする、刺激臭を持つことなどに気づくでしょう。たとえばオオイヌノフグリは、まるでルリ色(淡紫色)の宝石のような花(右図)を春咲かせます。また、ペンペン草とよぶナズナの4花弁の花は、美しいとはいえませんが、その花茎につく三角形で扁平の果実は三味線の撥(ばち)のよう(右図)で、花柄を振ると果実がこすれあい、サラサラと音がしてちょっとしたマラカスのようです。

オオイヌノフグリ



ナズナ



② この草花の名前は？

植物図鑑で花の形や色、葉の形や付き方をもとに検索してみましょう。だいたい目星がついたら、実物標本(抜き取ってはいけない場所や植物があるので注意しよう)、スケッチ、記録写真などを持って、学校の理科の先生や近くの植物に詳しい人に聞いて確かめましょう。自分で苦労してさがしあてることにより、一層その草花に親しみを感じ、ひいては他の植物にも興味が広がるでしょう。

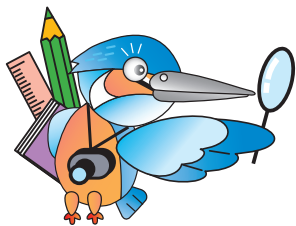
麻機遊水地は、池やまわりの湿地と外がわの乾燥した場所とに大別できます。池の中には水生植物のウキクサ、ハス、マツモなど、湿地にはミゾコウジュ、カササゲ、ヤナギの木、ガマ、オギなどが生え、乾燥した陸地には主にチガヤ、アレチハナガサ、セイタカアワダチソウなどが見られます。このように場所をわけて生えています(すみわけという)。

また、同じ場所でも季節によって植物の種類が変わります(植生遷移という)。

麻機遊水地の植物を観察するとき、このすみわけと植生遷移を念頭に、いつ、どの辺に、どんな植物が花を咲かせるかを調べるのも面白いでしょう。

③ 観察に出かけるとき持参したいもの

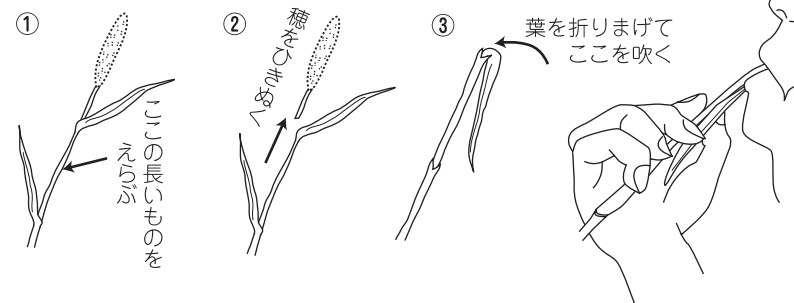
ルーペ、メジャー(物指し)、メモ用紙、筆記用具(色鉛筆があれば役立つ)、カメラ、ビニール袋など



植物を使った遊び

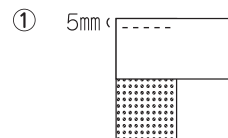
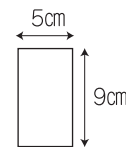


① スズメノテッポウで笛を作って吹いてみよう。 どんな音がでるかな

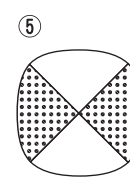
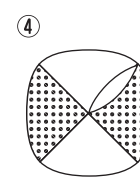
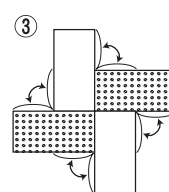
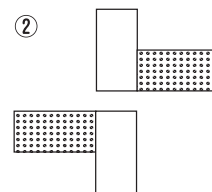


② ジュズダマでおてだまを作って遊ぼう。

【用意するもの】 布 (たて9cm×よこ5cm 無地 2枚 模様 2枚)
糸、はり、はさみ、ジュズダマなど



布地のオモテを内側にして2枚を縫い合わせる。
(縫いしろ: 5mm)



同様に、もう1組つくり、図のように、広げて位置関係を確認する。
(以降、縫い合わせた部分がすべて、布地の裏側に向くように縫い合わせる)

まず図のように縫い合わせて、となりあう模様の布と無地の布を縫い合わせていく。
(袋状になってゆく)

最後の1が所だけを残し裏返す。
(縫った糸はすべて内側になるので外からは見えなくなる)

空いている口からジュズダマを大きじ3杯ほど入れて口を縫えばできあがり。

秋に見られる植物



オオイヌタデ

(タデ科)

河川敷などに生える1年草。茎は高さ0.5～1.5m、節が目立ってふくらむ。葉の長さ16～23cm、明るい緑色、側脈が主脈の両側に20～30本ある。さや状托葉には外面や縁に毛がない（あっても数本）。花被（がく）は淡紅色、4裂、がくの筋ははっきりしている。

分布：日本全土

花期：6～10月

麻機遊水地ではよく

見かける大型のタデです。花序は長くて垂れ下がります。紅色や白の花（がく）があります。



サクラタデ

(タデ科)

湿地に生える多年草。茎の高さ0.5～1m、無毛、直立し、枝分かれが少ない。葉は披針形、長さ7～13cm、さや状托葉は筒形で長い縁毛がある。雌雄異株。花弁がなく、5枚の淡紅色の花被（がく）をつけた花が集まり、日本産ではもっとも大きく美しい花穂。

分布：本州～九州

花期：8～10月

麻機遊水地では第3工区で見られます。群生していたころの見事さはありませんが、出会えた時は嬉しいですね。もっと、もっとふえてほしい草です。



サデクサ

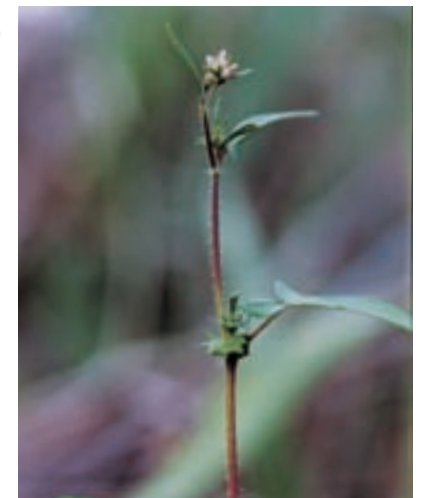
(タデ科)

湿地に生える1年草。茎は斜めに立ち、高さ0.3～1m、全面に下向きのとげがある。葉は両面星状毛を密生し、ヤノネグサに似るが、葉の基部が左右に伸び矛形となる。さや状托葉の上部は広がり、手のひら状に切れ込んだかたちとなる。花被は下が白く先が紅い。

分布：本州～九州

花期：7～10月

麻機遊水地では湿地に多く見られます。するといとげと大きな托葉、持つこともできませんが、花（がく）はよく見るときれいです。他県では少ないようです。





シロバナサクラタデ

(タデ科)

サクラタデと生態、形態がよく似ている。サクラタデの白花(アルピノ)とは別種。茎の枝分かれが多い。花穂は1茎に3本付くものが多い。花被(がく)は白色でサクラタデに比べ平開しない。果実の長さ2~2.5mm、黒色、光沢がある。

分布：日本全土

花期：8~10月

麻機遊水地では第3工区で3か所確認



しています。サクラタデも白っぽい花があり、まぎらわしいのでよく観察しましょう。

ミゾソバ

(タデ科)

水辺に生える1年草。茎は横に這った基部から立ち上がり長さ30~100cm、小さいとげが下向きにつく。葉は基部の両側に左右に突き出て矛形となる(牛の額に似てウシビタイともいう)。さや状托葉は短い縁毛または葉片状。花被は深く5裂、淡紅色である。

分布：日本全土

花期：8~10月

麻機遊水地では昔

も今も多く見られる湿地の植物です。金平糖のようなきれいな花は、幼い頃のままごと遊びによく使われました。



ホンバノウナギツカミ

(タデ科)

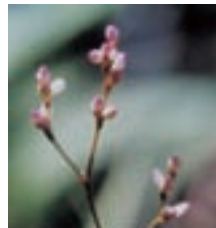
田のあぜなどの水辺に生える1年草。茎は地面を這い長さ30~80cm、下向きのとげがある。葉は柄があり長楕円形~狭披針形で、基部は矛形となる。托葉は膜質でさや状、長さ2cm。葉腋から花柄を出し、まばらに淡紅色の花をつける。

分布：関東~九州

花期：8~11月

麻機遊水地では湿地に多く生育してい

ますが、ほかではあまり見かけません。今は生えていても無くなるかも知れません。



ヤナギタデ

(タデ科)

水辺に生える1年草。茎の長さ40~60cm、無毛、緑色~赤色。葉の長さ5~10cm、披針形、日に透かすと半透明な腺点が散らばっている。葉をかむといつまでもひどく辛い。さや状托葉には短い辺毛がある。花序は細くて垂れ、花被は淡緑色

で、先だけ赤い。

分布：日本全土

花期：8~10月

麻機遊水地ではタ

デ科の中では最も多く生えています。花はあまり目立ちませんが、味の辛さでは負けません。





ヤノネグサ

(タデ科)

湿地に生える1年草。茎は斜めに立ち、高さ20～50cm、短いげがまばらにある。アキノウナギツカミに似た葉だが、葉柄があり、茎を抱かない。さや状の托葉は筒形で上部に短い毛がまばらに生える。花序は10個以下の淡紅色の小さい花のかたまり。分布：日本全土。花期：9～10月

麻機地遊水地では全工区に多く生えています。秋に

は紅葉して草紅葉となります。葉の形を矢の根(矢じり)に見たてた名前です。



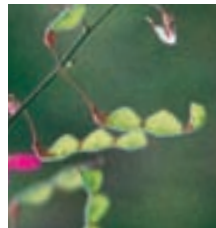
アレチヌスビトハギ

(マメ科)

アメリカ原産の多年草。都市から郊外へと分布を広げている。茎は高さ0.5～1m。葉は3小葉からなる。花は紅紫色の蝶形。がく片は4。果実は偏平。4～6節にくびれ、熟せば節

ごとに切れ、表面に生えた曲がった毛で動物の体にくっついて散布される。分布：関東以西に多い。花期：8～10月。

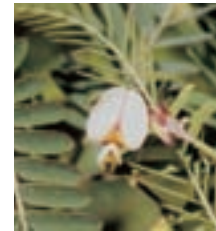
麻機遊水地では道ばたや、少し乾燥したところに多い草です。花はきれいですが、ズボンなどに着く実には困ったものです。



クサネム

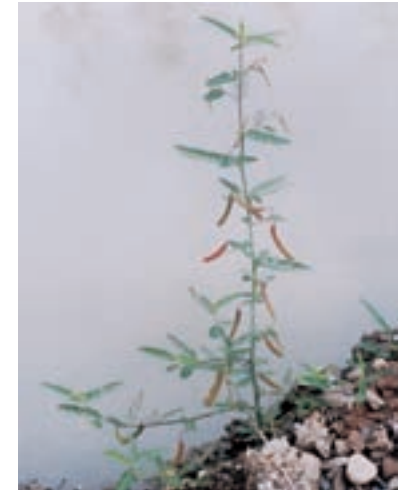
(マメ科)

湿地に生える1年草。茎は無毛、高さ50～80cm、淡緑色、上部は中空。葉は20～30対の小葉からなる偶数羽状複葉、下面は粉白色を帯びる。似たカワラケツメイとの区別：①花が蝶形、②果実が熟すと1節ごと落下。(カワラケツメイ①梅の花状、②2片に分裂)



分布：日本全土
花期：8～10月

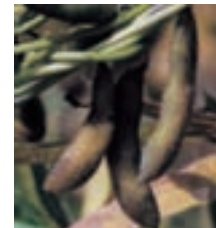
麻機遊水地では湿地によく目立つ草です。ポロポロと落ちた果実が水に流されてふえていくのでしょうか？夜は葉が眠ったように閉じます。



ツルマメ

(マメ科)

草地に見られるつる性の1年草。茎は褐色、下向きの毛があり左巻きにからまる。葉は互生、3小葉からなり小葉は狭卵形～披針形。花は淡紫色で5～8mm(左巻きの茎と葉の形が似



たノササゲは、葉が無毛、花は淡黄色)。豆果の長さ25～30mm、種子2～4個。分布：本州～九州。花期：7月下旬～9月。

麻機遊水地ではどこにでも多く見られます。大豆の原種といわれるだけあってゆでると、枝豆の味がします。





ゴキヅル

(ウリ科)

水辺に生える1年生のつる草。茎の長さ2m位、巻ひげで他物にからまりよじ登る。葉身は三角状披針形で先端がとがる。花は黄緑色、径9mm。がく、花冠ともに深く5裂。果実の長さ1.5cm位、熟すと横に割れふたがとれて中から2個の黒い種子を出す。

分布：日本全土

花期：8～11月

麻機遊水地では特

に第4工区に群生するようになりました。県内、県外共に少ない草です。群生していますが、大切にしたい草です。



スズメノトウガラシ

(ゴマノハグサ科)

田のあぜや湿地に生える1年生草。茎の高さ8～22cm。葉は対生、鋸歯はあるが低く少ない。類似のアゼトウガラシとの違いは、①下唇側のおしべ2本に葯がなく仮雄ずいになっ



る。②果実の先端にめしべの花柱がない、果柄が果実と同じくらい太いなど。

分布：本州～九州。花期：8～10月。

麻機遊水地では湿地でアゼナとよく混生しています。葉や実の形など比べてください。



アゼナ

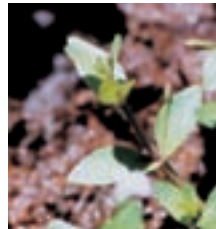
(ゴマノハグサ科)

田のあぜや沼のほとりなど湿地に生える1年草。茎の高さ10～20cm、断面は円形。葉は対生で鋸歯がない。3～5本の葉脈が目立つ。葉のもとに1個ずつ柄の長い花をつけ、花冠は淡紅色で上下2唇に分かれる。果実の長さ3.5mm位。

分布：本州～九

州。花期：8～9月。

麻機遊水地では湿地に多く生育しています。その他にも似たような草があります。アメリカアゼナ、タケトアゼナ、スズメノトウガラシなどです。



オギノツメ

(キツネノマゴ科)

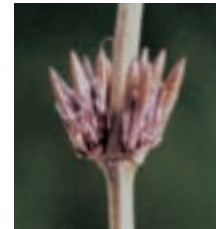
水辺に生える多年草。茎の高さ30～60cm、切り口は四角形。葉の長さ5～10cm、幅0.5～1.0cm対生。葉のわきに柄のない花が数個集まる。花冠の長さ1.0～1.2cmで淡紫色、長い筒の先は2裂し唇形。果実は細長く先がとがり、2裂して15個位

の種子をとばす。

分布：静岡以西～九州

花期：8～10月

麻機遊水地では特に第3工区に多く生えていますが、県内ではあまり見られません。





アメリカセンダングサ

(キク科)

北米原産の帰化植物。河岸、休耕田などの湿地に生える1年草。茎の高さ1～1.5m、紫褐色で切り口は四角。葉は長い柄があって対生。9～10月頃、黄色の頭花をつける。頭花の下部の苞が大きく目立つ。果実は扁平でのぎは2本で衣服によくつく。

麻機遊水地の全工区に多い草で、コセンダングサに似ています。葉や実の形などを比較するのもおもしろいでしょう。



コセンダングサ

(キク科)

熱帯アメリカ原産の帰化植物。荒地に生える1年草。茎は高さ50～110cmで切り口は4～6辺形、淡緑色で細かい毛が多い。葉は下方で対生、上方で互生。花期は夏から秋で上部の枝先に黄色の筒状花をつける。果実の頂に3～4本のとげがあり、とげには下向きの鈎状の剛毛がある。

麻機遊水地の乾いた所によく生える草で、実は衣類によく着く嫌われもの。そしてますます生育地を拡げています。



オオオナモミ

(キク科)

北米原産の帰化植物。荒地や道ばたに生える1年草。全体に短毛があってざらつく。茎は高さ120cmほどになる。葉は互生、3～5裂し、ふちに鋸歯がある。夏から秋にかけて茎の頂きと葉のわきに花序をだす。実は長さ2～2.5cm。全面にとげがあり、熟して赤褐色になる。

麻機遊水地では特に乾いた所に多く生えます。実はよくくっつき困りますが、他のものより大型で取りやすいです。マジックテープ考案のヒントになったものといわれています。



セイタカアワダチソウ

(キク科)

北米原産の帰化植物。空き地や河川敷に群落をつくる多年草。長い地下茎をひき、茎は高さ1～2.5m。茎と葉に短毛が密生し、ざらつく。葉は披針形で互生する。秋に茎の上部に多数の枝を出し径5mmほどの黄色い頭花を円すい状につける。果実は汚白色の冠毛がある。晩秋まで花が咲いている。

麻機遊水地の乾いた所に繁茂している草。根でふえるため手のつけようありませんが、秋には白い穂のオギと咲き競っています。





ヒロハホウキギク

(キク科)

北米原産の帰化植物。休耕田などに生える1年草または多年草。茎、葉とも無毛です。すべして生えている。高さ50～120cmぐらい。ホウキギクに似るが葉が茎を抱かない。花序の枝は茎と60°～90°の角度で広く開く。8～9月、径7～9mmの頭花を開く。舌状花は淡紫色。筒状花の冠毛が花筒より短いので冠毛は見えない。



麻機遊水地では湿地や乾いた所ならどこにでも生える草で、毎年同じ所ということはありませんが、比較的群生します。これに良く似たホウキギクもあります。



オモダカ

(オモダカ科)

水田や浅い沼に生える多年草。地下茎をのばし、その先に塊茎ができる。葉は根元から出て柄が長く、葉身は基部が深く2裂して矢じり形となり裂片の先はとがる。花茎は20～80cmで上方に雄花が下方に雌花が3個ずつ輪生し白色の3花弁をつける。花期は7～10月。

麻機遊水地では全工区に生育しているが、第3工区では、



乾地の増加にともない減少している。夏から秋には湿地によくあう草です。

コナギ

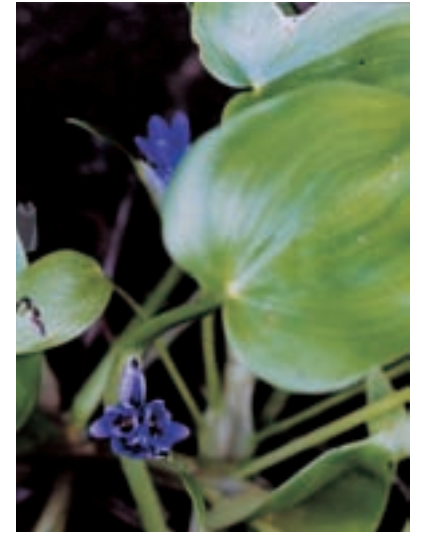
(ミズアオイ科)

池や水田に生える1年草。根元から出る葉には長い柄がある。葉身は卵形で3～7cm。8～9月に短い花序に径1.5～2cmの青紫色の花を開く。花茎は葉より低い。6個のおしべのうち1個だけ目立って大きく花系の横につのが生える。このおしべの



花粉をめしべに手渡す、自家受粉のよい例である。

麻機遊水地では現在あまり多く見られませんが、昔は水田雑草だったようです。茎や葉は食用になるといわれています。



イボクサ

(ツククサ科)

水田や湿地、川岸などに生える1年草。やや多肉質でやわらかく、茎は下部で枝分かれして地面を這い、高さ20～30cmになる。葉は長さ3～6cmの狭披針形で基部は茎を抱く。9～10月に葉のわきに径1.3cmほどの淡紅色の3弁の花を1個つける。花は朝開いて夕刻にはしぼむ。



麻機遊水地では全工区の湿地によく見

かける草です。花はツククサに負けないほどきれいです。秋には、茎葉部が紅紫色になります。





アシ

(イネ科)

池沼や田などの湿地に群生する多年草。太い根茎が地中を這い、高さ1~3mの茎を立てる。葉は長さ20~30cm、普通、途中から垂れ下がる。花序は円すい形で長さ15~40cmで淡紫色の小穂をたくさんつける。小穂は2~4個の小花よりなり、上部の小花には柄があり、これに長い白毛が生える。花期8~10月。別名ヨシ。



麻機遊水地では特に第

3、第4工区に大群生しています。水質浄化の働きもある草で、若芽は食用になるといわれています。

オギ

(イネ科)

池沼や田の縁などの湿地に生える多年草。根茎が長く横に伸び、茎は1本ずつ立つ。高さ2m位になる。花のつく頃は茎の下方の葉は枯れている。葉舌が殆んどない。花期は9~10月で小穂にはのぎがなく、基部の毛は長く銀白色でススキよりふさふさしている。



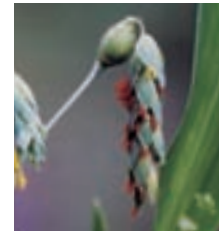
麻機遊水地では昔から最も多い草です。アシと共に湿地を代

表する草のひとつで、特に晩秋の純白の穂はきれいです。

ジュズダマ

(イネ科)

水辺に群生する多年草。茎は高さ2mにもなる。葉は長さ50cmで上部の葉鞘から何本かの柄が出て、その先に丸いつぼ形の苞葉がつく。苞葉は固くなり白色や淡青色などで、陶器のような光沢をもつ。7~10月、苞葉の中に雌花が包まれ、雄花の小穂



は苞葉から細い柄で抜け出して外にぶらさがり、果実は苞葉に包まれたまま散布される。

麻機遊水地には昔からよく生えていた草です。飾り物やお手玉などに使われ親しまれてきたなつかしい草です。



イヌホタルイ

(カヤツリグサ科)

溝や水田などの湿地に生える1年草。茎は束になって立ち、高さ15~30cm。茎の頂の苞葉は直立し、花序は、まるで茎の途中についているように見え、2~9個の小穂からなる。小穂の長さ10~17mmで無柄。果実は凸レンズ形で柱頭は2裂する。



花期7~10月。

麻機遊水地では全工区に生えています。多くはありませんが、この草に似たホタルイも、たまに見られます。





カンガレイ

(カヤツリグサ科)

水辺に生える多年草。茎は株立ち(注)になり高さ60～80cmぐらいで切り口は三角形、葉は退化し、さや状になる。8～10月に茎の頂に無柄の小穂を5～20個、横向きにつけ、茎

状の緑色の苞を直立させる。これは一見、茎のように見える。枯れた茎が冬になっても残ることでこの名がある。

麻機遊水地では第3、第4工区に多く生えています。特に池の中に群生し、昔からよく見られます。



サンカクイ

(カヤツリグサ科)

池や沼の縁、湿地などに生える多年草。高さ50～120cmになる。7～10月に茎の先に長さ2～5cmの苞が1個直立し、そのわきから2～3本の枝を出し、2～3個ずつ小穂をつける。小穂は長さ8～12mmの長卵形。茎の断面が三角形なのでこの名がある。

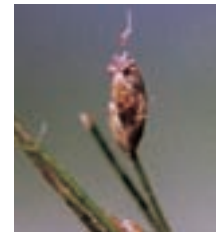
麻機遊水地では第3、第4工区に生えています。特に第3工区に群生しています。カンガレイは株立ちになりますが、サンカクイは単生します。



マツバイ

(カヤツリグサ科)

水田や湿地に群生する多年草。根茎は糸状で横に這い、節から針状のひげ根を出す。葉は糸状で根茎の節に集って立つ。夏から秋にかけて、高さ3～6cm位の茎を数本出し、頂きに各1個の小形で卵状楕円形で淡褐色の小穂をつける。



麻機遊水地では全工区に生え、水田雑草ともいわれています。マット状に生え、苞葉はありません。



ミズワラビ

(ミズワラビ科)

水田、池沼の水中や湿地に生える1年草の水生シダ植物。葉は柔らかく、胞子葉と栄養葉の2形がある。10月、胞子葉は2～3回羽状に分かれ、裂片は狭く、縁は折れ返



り、その中に胞子のうが入っている。栄養葉は1～3回羽状に分かれ裂片は広い。肥えた土地のものは大きくなる。

麻機遊水地では全工区で見られますが、2004年には買収のすすむ第1工区に多く見られました。食用になるともいわれています。



(注) 1つの根株から群がり生えること。

絶滅の恐れのある植物

※環境省による絶滅危惧種のランク指定。() 内は静岡県の指定。



ウスゲチョウジタデ (アカバナ科) …… NT (NT)

1年草。高さ50～70cm。茎や葉にまばらな細毛が、花床(花托)に白毛が密生している。がく片・おしべ各5個、花弁は黄色で5～6枚(チョウジタデは各4個、細毛や白毛がない)。草の形がタデに似、花は丁字形、毛がまばらにあることから名づけられた。花期：8～9月。



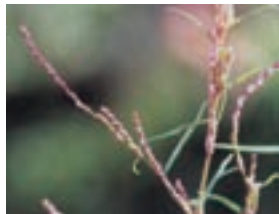
ミズニラ (ミズニラ科) …… VU (VU)

水生したの多年草。葉は根元から束生、長さ10～30cm、4稜円柱形。8～10月、根元に胞子のうをつける。胞子は大小2種あり、大胞子は雌性、小胞子は雄性的前葉体となる。県内の分布：'84年頃は伊豆の玄岳～沼津の浮島沼、小笠山～湖西と広範囲。今は浜名湖周辺と麻機遊水地で見られる。



ヌカボタデ (タデ科) …… VU (VU)

1年草。茎は地を這いつつ根を出す。直立した茎は高さ30cm位。葉は長披針形、両面に伏毛。鞘の辺に長毛。花期は8～10月。穂状花序は細長く紅色の花はまばら。果実1.5～1.7mm、3稜と2稜のものがある。'84年頃は浮島沼～袋井市に生育。現在は麻機遊水地のみで見られる。



ヤナギヌカボ (タデ科) …… VU (NT)

1年草。茎の下部は斜めに倒れ、節から根を出し先端は立つ。茎の高さ40cm位、枝分かれし葉を互生。葉は細長くヤナギのよう。上面にまばらな毛、下面に腺点。9～10月に穂が出、淡紅色、小さな花をまばらにつける。果実はレンズ形か3稜形、光沢あり。



ミズアオイ (ミズアオイ科) …… VU (VU)

抽水性の1年草。高さ30cm位。葉は茎に1枚、ハート形、長さ7～13cm、滑らかで光沢あり。9～10月、葉より高く花茎がのび径3cm、6枚の花被をもつ青紫色の総状花序をつける。おしべ6個のうち5個は葯が小形で黄色、1個は大きく紫色。麻機遊水地では、あまり見られなくなっている。



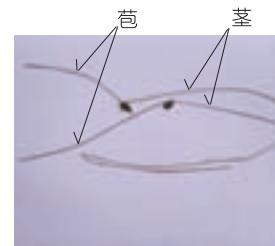
ミズネコノオ (シソ科) …… VU (EN)

本州～九州の湿地に生える1年草。茎は円柱形で稜がある。高さ30～60cm、無毛。葉は4～6枚を輪生。夏～秋にかけて茎の先に細長い円柱状の花穂を出し、淡紅白色の小さな唇形花を密につける。和名は、花穂の形を猫の尾に見立て、水中に生えることによる。



オニバス (スイレン科) …… VU (VU)

関東以西の池沼に生える大きな浮葉性の1年草。全体に刺針がある。成長した葉はほぼ円形で直径1～3m、表面は濃緑色で光沢があり、葉脈に沿ってしわがある。8～9月、鮮紫色の花弁を多数つけた直径4cm位の花をつけ、昼は開き夜は閉じる。ハスに似ているが刺があるのでオニ(鬼)が付いた。



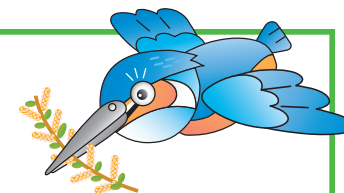
(押し葉標本)

台湾ヤマイ (カヤツリグサ科) …… (N-I)

本州～九州の湿地や池のほとりに生える多年草。ホタルイに似て叢生する。茎は円柱形で稜があり、高さ10～40cm。基部に葉身のない鞘が筒状となって茎を包む。8～9月、茎の先端に1～5個の小穂が集まってつく。そこから長さ6～15cmの苞がのび、茎の途中で花がついているように見える。台湾で最初に見つけられたイグサに似た草であることから名づけられた。



麻機遊水地のヤナギ



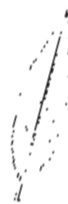
ヤナギの花の多くは、葉の出る前に咲くので、成葉と花の同時観察ができない。また雌雄異株なので、花の比較も重要ではあるが省いた。

コゴメヤナギ (雄花)



本県ではもっとも高木となる。よく分枝し、下枝は開出して、全体の形はまるくなる。小枝は短く、分枝点で折れやすい。葉の表面は緑色光沢があり、無毛、裏面は粉白色、托葉は斜卵形、短柄があり、柄の上に4~7個の小葉がある。花は3~4月に葉より先に咲く。
※葉の長さ4~7cm 幅0.8~1.2cm

ジャヤナギ (オオシロヤナギ)



高木となる。若枝には軟毛があるが、後に無毛となる。葉は両面とも無毛、表面は濃緑色、裏面はロウ質を分泌し粉白色。葉柄に白毛がある。枝は分枝点で折れやすい。葉は乾くと黒みをおびる。日本には雌株のみ。花は4月に葉と同時に咲く。
※葉の長さ10~15cm 幅2~3.5cm

シダレヤナギ (雄花)



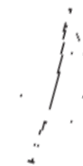
中国原産の高木。枝は細く長く垂れる。若葉はやや無毛、または軟毛を散生するが、のちに無毛となる。表面は濃緑色、裏面は粉白色。葉柄は表面に溝があり、軟毛がある。まれに托葉がある。花は4月下旬~5月上旬に葉より先に咲く。
※葉の長さ8~13cm 幅1~2cm

カワヤナギ (雌花)



株立状の小高木。小枝は斜上する。若枝と若葉には白軟毛を密生して白緑色であるが、のちに無毛となり、別種のように見える。葉は乾くと黒くなる。花は3月下旬~4月に葉より先に咲く。
※葉の長さ7~16cm 幅0.7~2cm

アカメヤナギ (マルバヤナギ)



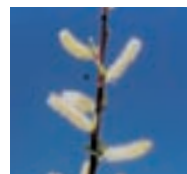
横に大枝が出て幅の広い高木となる。新葉は赤みをおびることが多い。成葉は広楕円形が多いが、小さい木では被針形である。表面緑色、裏面粉白色、鋸歯は細かく先端は腺で終わる。托葉は大型で腺状鋸歯がある。花は4月ごろ葉が出てから咲く。
※葉の長さ5~15cm 幅2~6cm

ウンリュウヤナギ



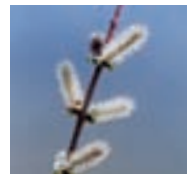
雲龍柳。中国原産の高木。幹は直立し、小枝は細く、蛇状に曲がり垂れ下がる。葉は互生し、若いときは両面に絹毛があるが、すぐ無毛となる。成葉は表面濃緑色、裏面粉白色、大きく波をうつ。花は4~5月上旬に葉とやや同時に咲く。
※葉の長さ5~10cm 幅0.8~1.5cm

タチヤナギ (雄花)



低木。幹は斜めに立ち、株もとから分かれていることが多く、枝はきわめて雑然としている。枝は無毛、葉は互生、全体に無毛である。表面は緑色、裏面は少し粉白色で質厚く、乾くと中央脈と葉柄が赤褐色となる。花は3~4月に葉が出る前に咲く。
※葉の長さ5~15cm 幅1.3~2.5cm

イヌコリヤナギ (雄花)



低木。下から株立ちし、多くの枝を出す。小枝はまっすぐで無毛、やや光沢がある。若葉は黄緑色、または紅色、成葉は対生または互生、表面は緑色。裏面は粉白色で両面とも無毛、托葉はない。花は3月下旬~4月に葉がでる前に咲く。
※葉の長さ4~10cm 幅1.3~2cm

遊水地で見られる植物・科別出現表

麻機遊水地は第1工区から第5工区までありますが、観察できる場所は、第3工区(55ha)、第4工区(31ha)の2か所です。

第3工区はかつて大沼と呼ばれて夏はフナ釣り、冬は柴揚げ漁が行われた浅い池だったところを、昭和36年から48年にかけて土地改良工事が行われ池の周囲は稲田や蓮田になりました。

第4工区は古くは武平淵と呼ばれた池だったそうです。現在は水鳥たちのサンクチュアリとなっています。大沼や武平淵と呼ばれていたころ、この池沼や湿地は地下水が湧き出たり、周辺の山から水が流れ込み、水草類たとえばツツイトモ、ヒルムシロなどが見られましたが、現在では水が淀み、これらの水草類はたちまち姿を消してしまい、汚水に強いオオフサモ、ホテイアオイなどがとってかわりました。また池の周りからヒメガマ、アシ、チクゴスズメノヒエなどが侵入しその枯れ草が池を埋め、丈の高い抽水植物が繁茂してきました。

科別出現表は1988年以降、遊水地で観察し記録されたものです。土手の斜面などに播かれた園芸品種や植栽された樹木は除外しました。水生・湿生植物は環境の影響を受けやすく、年ごとにまた季節ごとに消長します(遷移)。人手を加えることでなんとか安定した環境を維持して、水生植物を保全したいものです。

《表中の用語－出現現況の見方》

逸出：栽培種が管理されている場所から野外出て野生化すること。

帰化：帰化植物。外国原産の植物で、人為的またはいろいろな方法で渡来して、日本各地に広まったもの。

希少：希少種は絶滅が危惧されるもの(絶滅危惧種については、P 25参照)

希少は絶滅危惧種です。

普通：普通に見られる種。

少：個体数が少ない種。

多：個体数が多い種。

不明：以前は見られたが、今は見られない種。

注1) カヤツリグサ科は花が目立たないため、花期に実のつく時期(果期)を表記した。

注2) シダ植物は、種子でなく胞子でふえるので、花期に胞子をつける時期を表記した。

※種名右の数字は、写真付きで紹介している頁番号です。

科名	種名	花期(月)												出現状況	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
ヤナギ	シダレヤナギ P 65				●	●								逸出	普通
	アカメヤナギ P 66				●										普通
	カワヤナギ P 65			●	●										普通
	イヌコリヤナギ P 66			●	●										少
	ウンリュウヤナギ P 66				●	●								逸出	少
	フリソデヤナギ			●	●									逸出	不明
	ジャヤナギ P 65			●	●										普通
ニレ	コゴメヤナギ P 65			●	●										少
	タチヤナギ P 66			●	●										普通
	ムクノキ					●									少
	エノキ					●									少
	ケヤキ					●	●								少
	クワ	クワクサ									●	●			普通
イラクサ	カナムグラ									●	●			普通	
	ヤマグワ				●	●								少	
	ヤブマオ									●	●			少	
	カラムシ									●	●			少	
タデ	アオカラムシ									●	●			少	
	メヤブマオ									●	●			少	
	アオミズ									●	●	●		普通	
	ウナギツカミ					●	●	●						少	
	ヒメツルソバ				●	●	●	●	●	●	●	●	逸出	少	
	サクラタデ P 48								●	●	●			少	
	ヤナギヌカボ P 63									●	●		希少	少	
	ヤナギタデ P 50									●	●	●		多	
	シロバナサクラタデ P 49									●	●	●		少	
	オオイヌタデ P 47						●	●	●	●	●			普通	
	イヌタデ							●	●	●	●			普通	
	サデクサ P 48							●	●	●	●			多	
ヤノネグサ P 51									●	●			多		
オオケダデ							●	●	●	●		逸出	少		
イシミカワ P 27							●	●	●	●			多		
ホソバナウナギツカミ P 49									●	●	●		多		
ボントクダデ									●	●			少		
サナエタデ					●	●	●	●					少		
ママコノシリヌグイ P 28						●	●	●	●	●			普通		
アキノウナギツカミ									●	●	●		普通		
ヌカボタデ P 63									●	●	●	希少	少		
ミゾソバ P 50									●	●	●		多		
ハイミチヤナギ					●	●	●	●	●	●			少		
ミチヤナギ					●	●	●	●	●	●			少		
イタドリ									●	●			少		
スイバ					●	●							普通		
科名	種名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	出現状況	

※種名右の数字は、写真付きで紹介している頁番号です。

科名	種名	花期(月)												出現状況	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
(タ デ)	アレチギシギシ					●	●							帰化	普通
	ナガバギシギシ					●	●							帰化	普通
	ギシギシ					●	●								普通
	ヒロハギシギシ					●	●	●						帰化	少
ヤマゴボウ	ヨウシュヤマゴボウ					●	●	●	●					帰化	少
	オシロイバナ							●	●	●				逸出	少
	ザクロソウ							●	●	●	●				普通
	スベリヒユ							●	●	●					普通
	ナデシコ			●	●	●	●								少
	オランダミミナグサ				●	●	●							帰化	多
	ミミナグサ				●	●	●								少
	ツメクサ			●	●	●	●	●							普通
	ノミノフスマ P11				●	●	●								普通
	ウシハコベ				●	●	●	●	●	●					普通
	ミドリハコベ			●	●	●	●	●	●	●		●			少
	ハコベ(コハコベ)			●	●	●	●	●	●	●				帰化	普通
ア カ ザ	シロザ							●	●					帰化	普通
	ケアリタソウ							●	●	●				帰化	普通
	アリタソウ							●	●	●				帰化	少
	コアカザ						●	●	●					帰化	不明
	ウラジロアカザ						●	●	●	●				帰化	不明
ヒ ユ	ヒナタイノコズチ							●	●						多
	ホソバツルノゲイトウ							●	●	●	●	●		帰化	多
	ツルノゲイトウ							●	●	●				帰化	多
	イヌビユ							●	●	●				帰化	普通
	ホソアオゲイトウ							●	●					帰化	普通
	アオゲイトウ								●	●				帰化	少
	ホナガイヌビユ							●	●					帰化	普通
クスノキ	クスノキ					●	●								少
キンポウゲ	ボタンツル							●	●						少
	センニンソウ							●	●						少
	ケキツネノボタン P12				●	●	●								普通
	タガラシ P12				●	●									普通
	キツネノボタン				●	●	●	●							少
	アキカラマツ							●	●						少
ア ケ ビ	ゴヨウアケビ				●	●									不明
スイレン	フサジュンサイ						●	●	●	●					少
	オニバス P64							●	●					希少	少
	ハス P28							●	●						多
マ ツ モ	マツモ P29						●	●	●						多
	ドクダミ						●	●							普通
	ウマノスズクサ						●	●							少
	オトギリソウ						●	●	●	●					普通
科名	種名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	出現状況	

※種名右の数字は、写真付きで紹介している頁番号です。

科名	種名	花期(月)												出現状況	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
ケ シ	ムラサキケマン						●	●	●						普通
	タケニグサ								●	●					少
	ナガミヒナゲシ							●	●					帰化	少
ア ブラ ナ	セイヨウカラシナ P15				●	●	●							帰化	普通
	セイヨウアブラナ				●	●								逸出	少
	ナズナ P14				●	●	●	●							少
	タネツケバナ P14				●	●	●	●							多
	ミズタガラシ						●	●	●						不明
	コタネツケバナ				●	●	●	●						帰化	少
	オランダガラシ						●	●	●					帰化	少
	イヌガラシ P13						●	●	●	●	●				普通
	スカシタゴボウ P13							●	●	●	●	●	●		普通
	ケカキネガラシ							●	●	●	●			帰化	少
	マメグンバイナズナ							●	●	●				帰化	普通
ベンケイソウ	コモチマンネングサ							●	●						普通
	メキシコマンネングサ							●	●					帰化	少
	アズマツメクサ P44							●	●	●	●			希少	少
ユキノシタ	タコノアシ P43									●	●	●		希少	普通
	ユキノシタ									●					少
バ ラ	キンミズヒキ								●	●					普通
	ヘビイチゴ							●	●						普通
	ヤブヘビイチゴ							●	●						普通
	オヘビイチゴ P15							●	●						普通
	ノイバラ							●	●						普通
	オオフジイバラ							●	●						少
	クサイチゴ							●	●						普通
	モミジイチゴ							●	●						不明
	ナワシロイチゴ							●	●						普通
マ メ	モリシマアカシア							●	●					逸出	少
	クサネム P52									●	●	●	●		多
	ネムノキ								●	●					少
	ヤブマメ									●	●	●	●		普通
	ゲンゲ									●	●	●	●	逸出	少
	アレチヌスビトハギ P51									●	●	●	●	帰化	多
	ノアズキ									●	●				少
	ツルマメ P52									●	●	●	●		普通
	コマツナギ									●	●	●	●		少
	マルバヤハズソウ									●	●				普通
	ヤハズソウ									●	●	●	●		普通
	メドハギ									●	●				普通
	ネコハギ									●	●	●	●		少
	コメツブウマゴヤシ									●	●			帰化	少
	ウマゴヤシ									●	●			帰化	少
科名	種名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	出現状況	

※種名右の数字は、写真付きで紹介している頁番号です。

科名	種名	花期(月)												出現状況	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
(マメ)	ムラサキウマゴヤシ				●	●								帰化	少
	シロバナシナガワハギ				●	●	●							帰化	不明
	クズ							●	●						多
	コメツブツメクサ				●	●	●							帰化	普通
	タチオランダゲンゲ					●	●	●	●					帰化	不明
	アカツメクサ					●	●	●						帰化	普通
	シロツメクサ					●	●	●	●					帰化	普通
	カラスノエンドウ P16			●	●	●	●								普通
	シロバナカラスノエンドウ			●	●	●	●								不明
	カスマグサ				●	●									普通
	スズメノエンドウ				●	●	●								普通
	ヤブツルアズキ							●	●	●					普通
	カタバミ	カタバミ			●	●	●	●	●	●	●	●	●		普通
		オッタチカタバミ			●	●	●	●	●	●	●	●	●	帰化	普通
		ムラサキカタバミ			●	●	●	●	●	●	●	●	●	帰化	普通
	フウロソウ	アメリカフウロ			●	●	●	●						帰化	普通
	ゲンノショウコ						●	●	●					普通	
トウダイグサ	エノキグサ						●	●	●					普通	
	ヒロードエノキグサ						●	●	●					普通	
	ハイニシキソウ						●	●	●	●			帰化	不明	
	オオニシキソウ						●	●	●	●			帰化	普通	
	コニシキソウ					●	●	●	●				帰化	普通	
	アレチニシキソウ				●	●	●	●	●				帰化	少	
	イリオモテニシキソウ				●	●	●	●					帰化	普通	
	アカメガシワ					●	●							普通	
	ヒメミカンソウ					●	●	●	●					普通	
	コミカンソウ					●	●	●					帰化	普通	
	ナンキンハゼ					●	●						逸出	少	
ミカン	カラスザンショウ					●	●							少	
ウルシ	ヌルデ						●	●						少	
モチノキ	クロガネモチ					●	●							少	
ニシキギ	ツルウメモドキ				●	●								少	
ブドウ	ノブドウ					●	●							普通	
	ヤブガラシ					●	●							普通	
	エビヅル					●	●							普通	
シナノキ	カラスノゴマ						●	●						少	
アオイ	フヨウ						●	●	●	●			逸出	少	
	アメリカキンゴジカ						●	●	●	●			帰化	少	
アオギリ	ノジアオイ						●	●	●				帰化	少	
グミ	アキグミ					●								少	
スミレ	アリアケスミレ P16			●	●	●								少	
	ツボスミレ			●	●									少	
ミゾハコベ	イヌミゾハコベ					●	●	●	●					少	

※種名右の数字は、写真付きで紹介している頁番号です。

科名	種名	花期(月)												出現状況	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
ウリ	ミゾハコベ						●	●	●	●					少
	ゴキヅル P53									●	●	●	●		多
	スズメウリ									●	●				少
	アレチウリ							●	●					帰化	少
	カラスウリ								●	●					少
ミソハギ	ホソバヒメミソハギ P30								●	●	●			帰化	多
	ミソハギ								●	●					少
	キカシグサ									●	●	●			少
	ミズマツバ P43										●	●	●	希少	少
ヒシ	ヒシ P30									●	●	●	●		多
	オニビシ									●	●	●	●		普通
アカバナ	アカバナ									●	●	●	●		少
	チョウジタデ										●	●	●		少
	ウスゲチョウジタデ P63											●	●	希少	普通
	メマツヨイグサ P31										●	●		帰化	普通
	コマツヨイグサ										●	●	●	帰化	普通
	ユウゲショウ										●	●		帰化	普通
	マツヨイグサ										●	●	●	帰化	不明
アリノトウグサ	オオフサモ P17										●	●		帰化	多
	ホザキノフサモ P31										●	●	●		少
ウコギ	タラノキ											●			少
セリ	マツバゼリ										●	●	●	帰化	普通
	ツボクサ										●	●	●		普通
	ノチドメ										●	●	●		普通
	チドメグサ										●	●	●		少
	セリ P32											●	●		普通
	ヤブジラミ											●	●		少
	オヤブジラミ											●	●		普通
サクラソウ	ヌマトラノオ P32											●	●		少
	コナスビ											●	●		普通
モクセイ	ネズミモチ											●			少
	イボタノキ											●			少
	トウネズミモチ											●			少
ミツガシワ	アサザ P44											●	●	希少	少
ガガイモ	コバナカモメヅル P33											●	●		少
	アズマカモメヅル											●	●		少
	ガガイモ												●		少
アカネ	ヤエムグラ											●	●		普通
	ホソバノヨツバムグラ P33											●	●		少
	フタバムグラ											●	●		少
	ヘクソカズラ											●	●		普通
ヒルガオ	コヒルガオ											●	●		少
	ヒルガオ											●	●		普通

※種名右の数字は、写真付きで紹介している頁番号です。

科名	種名	花期(月)												出現状況	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
(ヒルガオ)	アメリカネナシカズラ							●	●					帰化	少
	マルバルコウ							●	●	●				帰化	普通
	アメリカアサガオ							●	●	●				帰化	少
	マメアサガオ							●	●	●				帰化	普通
	ベニバナマメアサガオ							●	●	●	●			帰化	普通
	ホシアサガオ P 34							●	●	●	●			帰化	普通
	アサガオ							●	●	●				逸出	少
	ムラサキ		●	●	●										
	キュウリグサ		●	●	●										
	クマツヅラ								●	●					
	ヤナギハナガサ							●	●	●	●			帰化	少
	アレチハナガサ P 34							●	●	●	●			帰化	多
	クマツヅラ							●	●	●	●				
	シュッコンパーベナ							●	●	●	●			帰化	少
	アワゴケ							●	●	●	●				
	シソ							●	●	●	●				
	ミズネコノオ P 64							●	●					希少	不明
	カキドウシ							●	●						
	ホトケノザ P 17		●	●	●										
	メハジキ								●	●					
	ヒメサルダヒコ P 35							●	●	●					
	コシロネ							●	●	●					
	ハッカ							●	●	●					
	ヒメジソ								●	●					
	イヌコウジュ								●	●					
	レモンエゴマ								●	●	●				
	ヒメオドリコソウ P 18							●	●					帰化	少
	ウツボグサ							●	●						
	ミゾコウジュ P 26							●	●					希少	少
	ナス								●	●					
	クコ							●	●						
	センナリホオズキ							●	●	●				帰化	不明
	ホオズキ							●	●					帰化	少
	アメリカイヌホオズキ							●	●	●				帰化	普通
	ワルナスビ							●	●	●	●			帰化	少
	ヒヨドリジョウゴ							●	●						
	カンザシイヌホオズキ							●	●	●				帰化	普通
	オオイヌホオズキ							●	●	●				帰化	普通
	イヌホオズキ							●	●	●					
	ゴマノハグサ								●	●	●				
	サウトウガラシ							●	●	●					
	アブノメ							●	●	●					
	オオアブノメ P 43							●	●	●				希少	少
	シンクサ								●	●					
	キクモ							●	●	●					
科名	種名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	出現状況	

※種名右の数字は、写真付きで紹介している頁番号です。

科名	種名	花期(月)												出現状況		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
	マツバウンラン								●	●					帰化	普通
	アメリカアゼナ								●	●					帰化	普通
	タケトアゼナ								●	●					帰化	普通
	アゼナ P 53									●	●					
	スズメノトウガラシ P 54									●	●	●				
	ウリクサ									●	●	●				
	アゼトウガラシ									●	●	●				
	サギゴケ									●	●					
	トキワハゼ									●	●	●	●			
	スズメハコベ P 44									●	●				希少	不明
	タチイヌノフグリ								●	●	●			帰化	普通	
	ムシクサ								●	●						
	オオイヌノフグリ								●	●				帰化	普通	
	カワヂシャ P 26									●	●			希少	少	
	キツネノマゴ									●	●	●				
	オギノツメ P 54									●	●	●				
	キツネノマゴ									●	●	●				
	ハマウツボ									●	●				帰化	少
	オオバコ									●	●	●	●	●		
	ヘラオオバコ									●	●	●	●	●	帰化	普通
	ツボミオオバコ									●	●	●	●	帰化	普通	
	オオヘラオオバコ									●	●	●	●	帰化	普通	
	ムジナオオバコ									●	●	●		帰化	少	
	スイカズラ									●	●					
	キキョウ									●	●					
	アセムシロ P 35									●	●	●	●			
	キク									●	●	●	●		帰化	少
	ブタクサ									●	●	●	●		帰化	多
	クワモドキ P 36										●	●	●		帰化	多
	カワラヨモギ										●	●	●			
	ヨモギ									●	●	●	●			
	ノコンギク									●	●	●	●			
	ホウキギク									●	●	●	●	帰化	少	
	ヒロハホウキギク P 57									●	●	●	●	帰化	多	
	アメリカセンダングサ P 55									●	●	●	●	帰化	多	
	コセンダングサ P 56									●	●	●	●	帰化	多	
	シロノセンダングサ									●	●	●	●	帰化	少	
	トキンソウ									●	●	●	●			
	フランスギク									●	●				逸出	少
	ベニバナボロギク									●	●	●	●	帰化	普通	
	タカサブロウ									●	●	●	●			
	アメリカタカサブロウ P 36									●	●	●	●	帰化	多	
	ダンドボロギク									●	●	●	●	帰化	少	
	ヒメジョオン									●	●	●	●	帰化	多	
	アレチノギク									●	●	●	●	帰化	少	
科名	種名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	出現状況		

※種名右の数字は、写真付きで紹介している頁番号です。

科名	種名	花期(月)												出現状況	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
(キク)	ヒメムカシヨモギ								●	●	●			帰化	多
	ハルジオン P 20				●	●	●							帰化	少
	ヘラバヒメジオン						●	●	●					帰化	少
	オオアレチノギク							●	●	●	●			帰化	多
	ハキダメギク							●	●	●	●			帰化	普通
	ハハコグサ				●	●	●							少	
	タチチコグサ							●	●	●	●			帰化	少
	チコグサモドキ					●	●	●	●	●	●			帰化	普通
	ウラジロチコグサ				●	●	●	●	●					帰化	普通
	キツネアザミ P 19					●	●							少	
	ブタナ							●	●	●				帰化	少
	オオジシバリ					●								普通	
	ニガナ					●	●	●						普通	
	ホソバニガナ P 25				●	●	●							希少	少
	ノニガナ P 25				●	●	●							希少	少
	イワニガナ				●	●	●	●						普通	
	ヨメナ							●	●	●	●			普通	
	アキノノゲシ								●	●	●			普通	
	ホソバアキノノゲシ								●	●	●			普通	
	コオニタビラコ P 19			●	●	●								少	
	ヤブタビラコ				●	●	●							少	
	コウゾリナ					●	●	●	●	●	●			普通	
	ノボロギク	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	帰化	普通
	セイタカアワダチソウ P 56									●	●	●		帰化	多
	オニノゲシ				●	●	●	●						帰化	普通
	ノゲシ				●	●	●	●						普通	
	アカミタンポポ			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	帰化	少
	ヒロハタンポポ			●	●	●								普通	
	セイヨウタンポポ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	帰化	多
	オニタビラコ				●	●	●	●	●	●	●	●	●	普通	
	オオオナモミ P 55							●	●	●				帰化	普通
	カワラハハコ							●	●					少	
	オモダカ							●	●	●				少	
	ウリカワ							●	●					少	
オモダカ P 57							●	●	●	●			少		
クワイ							●	●	●	●			逸出	少	
トチカガミ					●	●	●	●	●	●			帰化	多	
オオカナダモ					●	●	●	●	●				帰化	少	
コカナダモ					●	●	●	●	●				少		
クロモ							●	●	●				不明		
ミズオオバコ							●	●	●				少		
ヒルムシロ						●	●	●	●				少		
エビモ					●	●	●	●	●				少		
ヒルムシロ					●	●	●	●	●				少		
ヤナギモ					●	●	●	●	●				少		

※種名右の数字は、写真付きで紹介している頁番号です。

科名	種名	花期(月)												出現状況		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
	ツツイトモ P 44								●	●	●			希少	不明	
	ホソバミスヒキモ								●	●	●	●			不明	
イバラモ	オオトリゲモ								●	●	●				不明	
ユリ	ノビル								●	●					普通	
	ニラ										●			逸出	少	
	ヤブカンゾウ								●	●					普通	
	ノカンゾウ								●	●					少	
	ジャノヒゲ								●	●					少	
	ツルボ										●	●			少	
ヒガンバナ	ヒガンバナ											●			普通	
ヤマノイモ	ニガガシュウ											●	●		少	
	ヤマノイモ											●	●		少	
	オニドコロ											●	●		少	
ミズアオイ	ミズアオイ P 64												●	●	希少	少
	コナギ P 58												●	●		少
	ホテイアオイ P 37												●	●		帰化
アヤメ	キショウブ								●	●					帰化	少
	ニワゼキショウ P 20								●	●	●				帰化	普通
	キバナニワゼキショウ								●	●	●				帰化	少
	オオニワゼキショウ								●	●	●	●			帰化	普通
イグサ	コゴメイ								●	●	●	●			帰化	普通
	イ P 37								●	●	●	●				普通
	ヒロハコモチゼキショウ								●	●						普通
	コウガイゼキショウ P 38								●	●						普通
	コモチゼキショウ								●	●	●					普通
	ハリコウガイゼキショウ								●	●						少
	タチコウガイゼキショウ								●	●						少
	ホソイ								●	●	●					少
	クサイ								●	●	●					普通
	タチクサイ								●	●	●				帰化	不明
	ヒメコウガイゼキショウ								●	●						不明
ツユクサ	イボクサ P 58											●	●			普通
	ツユクサ											●	●	●		普通
	ノハカタカラクサ								●	●	●	●			帰化	少
ホシクサ	ヒロハイヌノヒゲ											●	●			少
イネ	アオカモジグサ								●	●						普通
	カモジグサ								●	●	●					普通
	ヌカボ								●	●	●					普通
	コヌカグサ								●	●	●				帰化	普通
	クロコヌカグサ								●	●	●				帰化	少
	スズメノテッポウ P 21								●	●	●					普通
	セトガヤ								●							少
	メリケンカルカヤ											●	●	●	帰化	普通

※種名右の数字は、写真付きで紹介している頁番号です。

科名	種名	花期(月)												出現状況			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12				
(イネ)	コブナグサ									●	●	●				普通	
	トダシバ								●	●	●					普通	
	カラスムギ				●	●										帰化	普通
	カズノコグサ			●	●	●										普通	
	ヒメコバンソウ			●	●	●										帰化	普通
	イヌムギ				●	●	●									帰化	普通
	ヤクナガイヌムギ			●	●	●										帰化	普通
	スズメノチャヒキ				●	●	●									帰化	普通
	キツネガヤ					●	●									少	
	ヤマアワ						●	●	●							少	
	ジュズダマ P 60						●	●	●	●						普通	
	メヒシバ						●	●	●	●	●					多	
	コメヒシバ						●	●	●	●	●					帰化	少
	アキメヒシバ						●	●	●	●	●					普通	
	イヌビエ						●	●	●	●	●					多	
	ケイヌビエ P 38						●	●	●	●	●					多	
	タイヌビエ						●	●	●	●	●					多	
	ヒメイヌビエ						●	●	●	●	●					少	
	オヒシバ						●	●	●	●	●					普通	
	シナダレスズメガヤ						●	●	●	●	●					帰化	普通
	カゼクサ						●	●	●	●	●					普通	
	ニワホコリ						●	●	●	●	●					普通	
	オオニワホコリ						●	●	●	●	●					普通	
	コスズメガヤ						●	●	●	●	●					帰化	普通
	オニウシノケグサ						●	●	●	●	●					帰化	多
	ハガワリトボシガラ						●	●	●	●	●					帰化	普通
	ナギナタガヤ			●	●											帰化	普通
	ムツオレグサ P 22				●	●										少	
	ウシノシッペイ					●	●	●								少	
	チガヤ P 21				●	●										多	
	ケナシチガヤ			●	●											普通	
	チゴザサ P 39					●	●	●								普通	
	アシカキ						●	●	●							普通	
	アゼガヤ						●	●	●							普通	
	ネズミムギ				●	●										帰化	多
	ホソムギ				●	●										帰化	少
	ネズミホソムギ				●	●										帰化	少
	ヒメアシボン						●	●	●							普通	
	アシボン						●	●	●							普通	
	オギ P 59						●	●	●							多	
	ススキ						●	●	●							多	
	オオクサキビ						●	●	●							帰化	多
	ヌカキビ						●	●	●							普通	
科名	種名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	出現状況			

※種名右の数字は、写真付きで紹介している頁番号です。

科名	種名	花期(月)												出現状況			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12				
(イネ)	シマスズメノヒエ									●	●	●	●			帰化	普通
	キシウスズメノヒエ									●	●	●	●			帰化	少
	チクゴスズメノヒエ P 39									●	●	●	●			帰化	多
	スズメノコヒエ									●	●	●	●			少	
	タチスズメノヒエ									●	●	●	●			帰化	少
	チカラシバ									●	●	●	●			普通	
	アオチカラシバ									●	●	●	●			少	
	クサヨシ									●	●	●	●			普通	
	アシ P 59										●	●	●			多	
	ツルヨシ										●	●	●			少	
	セイタカヨシ										●	●	●			少	
	メダケ										●	●	●			少	
	スズメノカタビラ				●	●	●	●								普通	
	ツルスズメノカタビラ				●	●	●	●	●	●	●	●	●			帰化	普通
	オオイチゴツナギ									●	●	●	●			少	
	ナガハグサ									●	●	●	●			帰化	普通
	イチゴツナギ									●	●	●	●			少	
	ヒエガエリ									●	●	●	●			普通	
	ヌメリグサ												●	●	●	少	
	アキノエノコログサ												●	●	●	●	普通
	コツブキンエノコロ												●	●	●	●	普通
	キンエノコロ												●	●	●	●	普通
	エノコログサ												●	●	●	●	普通
	ムラサキエノコロ												●	●	●	●	少
	セイバンモロコシ												●	●	●		帰化
	ネズミノオ													●	●	●	少
	ムラサキネズミノオ													●	●	●	普通
	カニツリグサ													●	●		普通
	マコモ P 40													●	●	●	多
	タツノツメガヤ													●	●		帰化
	シバ													●	●		普通
サトイモ	ショウブ P 22													●	●	●	少
	セキショウ													●	●		少
	カラスビシャク													●	●	●	少
ウキクサ	アオウキクサ													●	●	●	普通
	ウキクサ P 23													●	●	●	普通
ミクリ	ミクリ P 44													●	●	●	希少
ガマ	ヒメガマ P 40													●	●	●	多
	ガマ													●	●	●	少
	コガマ													●	●	●	少
カヤツリグサ	アオスゲ													●	●	●	普通
	アゼナルコ P 24													●	●	●	多
	カサスゲ P 24													●	●	●	多
科名	種名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	出現状況			

※カヤツリグサ科は花期を果期とする。

※種名右の数字は、写真付きで紹介している頁番号です。

科名	種名	花期(月)												出現状況
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
(カヤツリグサ)	マスクサ				●	●								普通
	ジュズゲ				●	●								普通
	ノゲヌカサゲ				●	●								少
	ミコシガヤ				●	●								少
	アメリカミコシガヤ				●	●								帰化
	アゼスゲ P 23				●	●								多
	ヤワラスゲ				●	●								少
	アイダクグ						●	●	●	●				普通
	ヒメクグ						●	●	●	●				少
	クグガヤツリ							●	●	●				普通
	イヌクグ							●	●	●				少
	タマガヤツリ P 41							●	●	●				普通
	メリケンガヤツリ P 42							●	●	●				多
	シヨクヨウガヤツリ							●	●	●				帰化
	ヒナガヤツリ							●	●	●				普通
	アゼガヤツリ							●	●	●				普通
	ヌマガヤツリ							●	●	●				不明
	コゴメガヤツリ							●	●	●				普通
	カヤツリグサ							●	●	●				少
	アオガヤツリ							●	●	●				不明
	イガガヤツリ							●	●	●				普通
	ハマスゲ							●	●	●				普通
	カワラスガナ P 41							●	●	●				普通
	ミズガヤツリ P 42							●	●	●				普通
	ハリイ							●	●	●				普通
	クログワイ							●	●	●				少
	コツバナハリイ P 43							●	●	●				希少
	マツバイ P 62							●	●	●				普通
	ヒメテンツキ							●	●	●				普通
	テンツキ							●	●	●				普通
	クロテンツキ							●	●	●				少
	ヒデリコ							●	●	●				普通
	メアゼテンツキ							●	●	●				少
	イヌホタルイ P 60							●	●	●				普通
	ホタルイ							●	●	●				少
	フトイ							●	●	●				少
	カンガレイ P 61							●	●	●				多
	サンカクイ P 61							●	●	●				普通
	台湾ヤマイ P 64							●	●					希少
	ネジバナ				●	●	●							不明
ラ	アカウキクサ									●	●			希少
	アカウキクサ P 26									●	●			多
	ミズニラ P 63									●	●			希少
	ミズワラビ P 62									●				少
科名	種名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	出現状況

※カヤツリグサ科は花期を果期とする。

植物名索引

*写真付きで紹介した植物のみ掲載 (119種)

ア

- アカウキクサ 26
- アカメヤナギ 66
- アサザ 44
- アシ 59
- アズマツメクサ 44
- アゼスゲ 23
- アゼナ 53
- アゼナルコ 24
- アゼムシロ 35
- アメリカセンダングサ .. 55
- アメリカカタカサブドウ .. 36
- アリアケスマレ 16
- アレチヌスビトハギ 51
- アレチハナガサ 34
- イ 37
- イシミカワ 27
- イヌガラシ 13
- イヌコリヤナギ 66
- イヌホタルイ 60
- イボクサ 58
- ウキクサ 23
- ウスゲチヨウジタデ 63
- ウンリュウヤナギ 66
- オオアブノメ 43
- オオイスタデ 47
- オオオナモミ 55
- オオフサモ 17
- オギ 59
- オギノツメ 54
- オニバス 64
- オヘビイチゴ 15
- オモダカ 57

カ

- カサスゲ 24
- カラスノエンドウ 16
- カワヂシャ 26
- カワヤナギ 65
- カワラスガナ 41
- カンガレイ 61
- キツネアザミ 19
- クサネム 52
- クワモドキ 36
- ケイスビエ 38

- ケキツネノボタン 12
- コウガイゼキショウ 38
- コオニタバコ 19
- ゴキツル 53
- コケオトギリ 29
- コゴメヤナギ 65
- コセンダングサ 56
- コツバナハリイ 43
- コナギ 58
- コバノカモメヅル 33

ハ

- ハス 28
- ハルジョオン 20
- ヒシ 30
- ヒメオドリコソウ 18
- ヒメガマ 40
- ヒメサルダヒコ 35
- ヒロハホウキギク 57
- ホザキノフサモ 31
- ホシアサガオ 34
- ホソバニガナ 25
- ホソバノウナギツカミ .. 49
- ホソバノヨツバムグラ .. 33
- ホソバヒメミソハギ 30
- ホテイアオイ 37
- ホトケノザ 17

サ

- サクラタデ 48
- サデクサ 48
- サンカクイ 61
- シダレヤナギ 65
- ジャヤナギ 65
- ジュズダマ 60
- ショウブ 22
- シロバナサクラタデ 49
- スカシタゴボウ 13
- スズメノテッポウ 21
- スズメノトウガラシ 54
- スズメハコベ 44
- セイトカアワダチソウ .. 56
- セイヨウカラシナ 15
- セリ 32

マ

- マコモ 40
- マツバイ 62
- マツモ 29
- ママコノシリヌグイ 28
- ミクリ 44
- ミズアオイ 64
- ミズガヤツリ 42
- ミズニラ 63
- ミズネコノオ 64
- ミズマツバ 43
- ミズワラビ 62
- ミヅコウジュ 26
- ミヅソバ 50
- ムツオレグサ 22
- メマツヨイグサ 31
- メリケンガヤツリ 42

タ

- 台湾ヤマイ 64
- タガラシ 12
- タコノアシ 43
- タチヤナギ 66
- タネツケバナ 14
- タマガヤツリ 41
- チガヤ 21
- チクゴスズメノヒエ 39
- チゴザサ 39
- ツツイトモ 44
- ツルマメ 52

ヤ

- ヤセウツボ 18
- ヤナギタデ 50
- ヤナギヌカボ 63
- ヤノネグサ 51

ナ

- ナズナ 14
- ニワゼキショウ 20
- ヌカボタデ 63

参考文献

- | | | |
|-----------------|-------------|-------|
| 1. 原色日本植物図鑑 | 北村四郎他共著 | 保育社 |
| 2. 検索入門 野草図鑑全8巻 | 長田武正著 | 保育社 |
| 3. 野草検索図鑑 | 矢野 佐・高橋秀雄共著 | 学習研究社 |
| 4. ポケット図鑑 | 菱山忠三郎著 | 主婦の友社 |
| 5. 日本帰化植物図鑑 | 長田武正著 | 北隆館 |
| 6. 牧野新日本植物図鑑 | 牧野富太郎著改訂増補 | 北隆館 |
| 7. 静岡県植物誌 | 杉本順一著 | 第一法規 |
| 8. 静岡県の植物図鑑上、下 | 杉野孝雄著 | 静岡新聞社 |
| 9. 春・夏・秋の植物 | 黒澤美房他共著 | 静岡新聞社 |
| 10. 原色日本樹木図鑑 | 北村四郎補 岡本省吾著 | 保育社 |

あなたも参加しませんか

麻機遊水地自然観察

特定非営利活動法人麻機湿原を保全する会では、毎年9月上旬に麻機遊水地自然観察会を開催しています。また小学校の総合学習や各種団体からの要望を受け、植物に詳しい「自然環境レンジャー」を派遣しています。ご希望の方は事務局までご連絡ください。



制作スタッフ

特定非営利活動法人 麻機湿原を保全する会

監 修 湯浅保雄
解 説 尾上元、前島固女、平野時子
写真提供 前島幸彦、尾上元、伴野正志、鈴木和喜
事務局 鈴木和喜

特定非営利活動法人 麻機湿原を保全する会

私たちは麻機遊水地を拠点に「生きものと地域の関わりを大切にした活動や行政とも連携した活動を目指しています。

《主な活動》

- ・ **生きものを大切にした活動**
長年遊水地を中心に動植物の観察活動をしている会員が中心になって、ヤナギの森づくりやクリーン作戦を行い、生きものの住みやすい環境づくりをしています。
- ・ **地域との関わりを大切にした活動**
湿原であったこの地域を開墾し、稲作や伝統漁（柴あげ）など農村文化を育ててきた人たちから、昔の様子を聞いたり、田んぼを復元するなどの活動をしています。
- ・ **自然環境教育への支援活動**
生きものや地域の文化に詳しい会員を「自然環境レンジャー」に認定し、小学校の総合学習や町内会の観察会に派遣しています。



麻機遊水地の自然 —シリーズ②植物—

発行：静岡県静岡土木事務所（河川改良課）
〒422-8031 静岡市駿河区有明町2-20
TEL 054-286-9363 FAX 054-286-9398
〈静岡土木事務所ホームページ：ともえ川（ともえランド）〉
<http://doboku.pref.shizuoka.jp/desaki2/shizuoka/>

制作：特定非営利活動法人 麻機湿原を保全する会
事務局 〒420-0961 静岡市葵区北141-1
TEL 054-247-4905

遊水地利用上の
ご注意



大雨により河川の水位が上昇して水が遊水地に流れ込む危険があると
回転灯  が回ります。また周辺の河川から水が遊水地に流れ込
む直前にはスピーカー  からサイレンが鳴ります。
回転灯が回ったり、サイレンが鳴ったら、危険ですので、すぐに遊水地の
外に出てください。

バスご利用（新静岡バス停から）

- 13番のりば（西バスホーム）で「国立療養所・静岡神経医療センター」行（こども病院線）に乗車
- 16番のりば（西バスホーム）で「麻機」行、もしくは「麻機北」行（大浜麻機線）に乗車

